全機能操作マニュアル

一般向け無料版・完全版 / Windows

86項目・93ページ。初めての操作から、描画・撮影・整理・更新まで説明します。

目次の項目名をクリックすると説明へ移動します。各ページ下の「目次へ」から戻れます。

使い始める方：概要 → インストール → 操作バー → 撮影の順にご覧ください。

後から再編集する場合は、編集情報付きPNGの原本、または.dinkプロジェクトを保管してください。

一般向けは無料で開始し、GogoAuth認証で保存済みデータも再編集できます。

画面例は実際のDesktopInkの操作画面です。PCの保存場所やモニター番号は環境で変わります。

クリックして目次を開く

クリックで移動できる目次

01 DesktopInkの概要と動作環境 8

02 初回起動のWindows警告 9

03 Setup.exe でインストールする 10

04 ツールバーの13個のボタン 11

05 操作バーを小さく折りたたむ 12

06 ツールバーの位置を動かす 13

07 ツールバーを縦向き・横向きに変える 14

08 詳細設定・編集画面を開く／隠す 15

09 キャプチャー管理画面の見方 16

10 カメラから撮影方法を選ぶ 17

11 範囲をドラッグして撮る 18

12 キャプチャー後に編集を始める 19

13 前回と同じ範囲を撮り直す 20

14 現在モニター／全モニターを撮る 21

15 右クリックで線の種類を変える 22

16 直線を1本ずつ引く 23

クリックで移動できる目次

17 フリーハンドで描く 24

18 矢印を描く／直線をあとから矢印に変更 25

19 長方形と楕円で囲む 26

20 折れ線の頂点を追加・確定する 27

21 ベジェ曲線を作る 28

22 描画から選択に切り替えて動かす 29

23 大きさ・頂点をハンドルで変える 30

24 引いた直線をあとから曲げる 31

25 画面上に入力枠を作って文字を入れる 32

26 文字を修正・移動・枠を広げる 33

27 文字の背景色を指定する 34

28 入力済みの文字背景を後から変更・透明に戻す 35

29 線色・文字色・太さを変える 36

30 塗りつぶし・塗りなし・不透明度 37

31 描くレイヤーを選ぶ／表示を切り替える 38

32 レイヤーを追加・複製する 39

クリックで移動できる目次

33 現在のレイヤーの描画を全部消す 40

34 全レイヤーの描画をまとめて消す 41

35 複数選択・複製・削除 42

36 最前面・最背面／グループ化 43

37 左・上・中央に整列する 44

38 初期スナップと個別スナップ 45

39 スタイルをプリセット登録・適用 46

40 通常PC操作とお絵描きを切り替える 47

41 描画を終了して編集画面へ戻る 48

42 1台／共通／独立キャンバス 49

43 解像度・拡大率が違う複数モニターで使う 50

44 背景画像を差し替える・消す 51

45 編集情報付きPNGひとつに保存する 52

46 PNG・旧.dinkを開き直す／上書き・別名保存 53

47 PNGで完成画像と編集情報をまとめて書き出す 54

48 JPEGで保存①：形式を選ぶ 55

クリックで移動できる目次

49 JPEGで保存②：保存先と名前 56

50 自動保存された元画像を呼び出す 57

51 表示フォルダーと次回保存先を使い分ける 58

52 保存用フォルダーを追加する 59

53 フォルダーを改名し、保存先を維持する 60

54 フォルダーを移動・削除する 61

55 画像・プロジェクトを取り込み・改名・移動する 62

56 エクスプローラー側で整理した変更を反映する 63

57 親保存先を後から変更する 64

58 無料版とフル版で変わること 65

59 GogoAuthで完全版に切り替える 66

60 新規作成・終了・バージョン更新 67

61 アンインストールと保持・削除の選択 68

62 よくあるつまずきと未実装機能 69

63 不具合・認証の問題を連絡する 70

64 最大5台・端末変更・認証解除の注意 71

クリックで移動できる目次

65 認証できない・ネット接続がないとき 72

66 同じバージョンを修復・再インストールする 73

67 更新に失敗した場合の復旧 74

68 保存場所とバックアップ 75

69 キーボード操作と設定 76

70 高度な編集：描き込みを今のデスクトップへ再表示 77

71 保存ファイルから追加する／現在の描き込みを置き換える 78

72 背景だけ／描き込みだけをPNGで取り出す 79

73 編集情報付きPNGの注意・破損時の対応 80

74 複数画像を1本の操作バーで編集する 81

75 デスクトップ再表示と復帰の操作 82

76 赤い点からその場で設定を開く 83

77 赤い点で線・矢印・線種を変更する 84

78 赤い点で文字サイズ・背景・内容を変更する 85

79 赤い点で図形の線と塗りを変更する 86

80 最新版の確認・自動更新と手動更新 87

クリックで移動できる目次

81 更新できないとき・手動更新への切り替え 88

82 フリーハンド・折れ線・曲線を矢印に変える 89

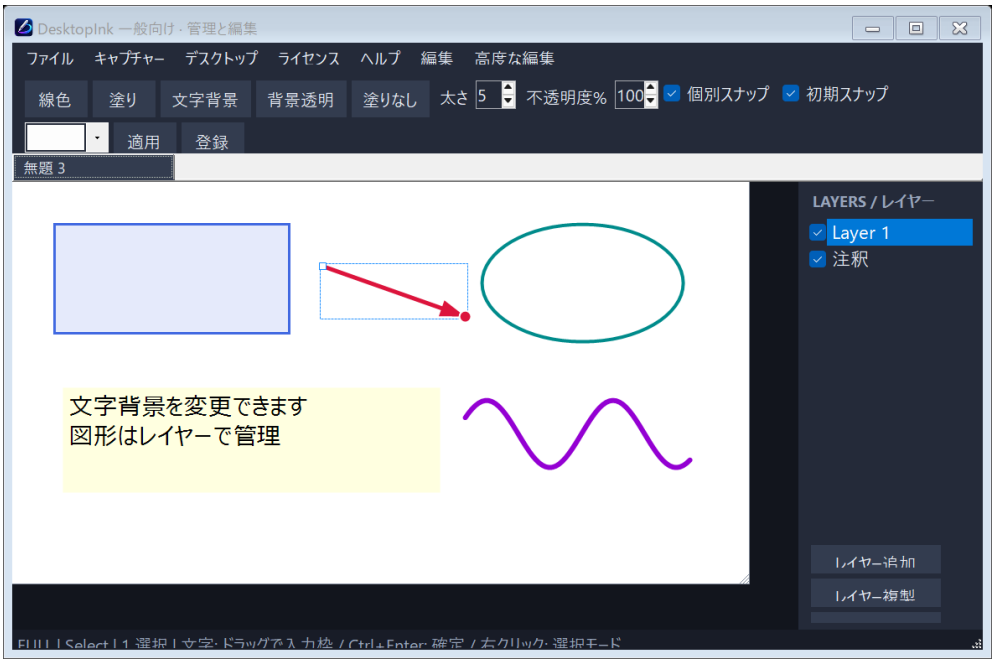
83 不要なレイヤー自体を削除する 90

84 画像編集と通常のPC操作を切り替える 91

85 表示倍率を変更して画像全体・細部を編集する 92

86 白いキャンバスの大きさを変える 93

DesktopInkの概要と動作環境



DesktopInk 1.3.7 実画面の操作例

1. 用途を知る

Windowsの画面や画像へ描き込みます。編集情報付きPNGなら画像と編集データを1ファイルに保存できます。従来の.dinkも読み込めます。

2. 環境を確認

Windows 10 / 11向け、.NET Framework 4.8系のWindowsデスクトップアプリです。今回の実機検証環境はWindows 11です。一般向け有料認証にはインターネット接続が必要です。

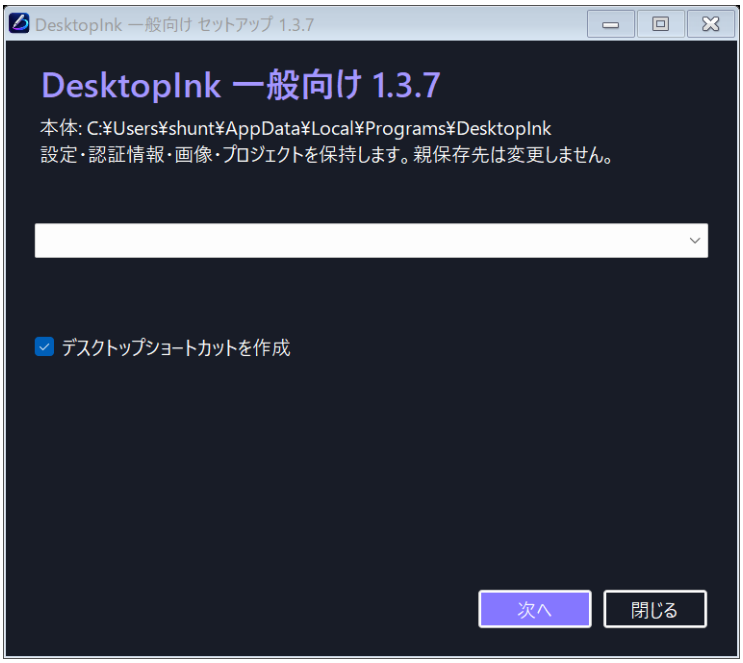
3. 版を確認

一般向けは無料で開始し、有料のGogoAuth認証で完全版になります。受講生専用版は専用インストーラーで配布し、アプリの認証なしで全機能を利用できます。

操作のポイント

機能と制限は実装済み内容を記載しています。自動更新・Undo/Redoなど、未実装機能は完全版にも追加されません。

初回起動のWindows警告



DesktopInk 1.3.7 実画面の操作例

1. 配布元を確認する

信頼できる配布元から入手した一般向けセットのSetup.exeを使います。ZIPで受け取ったときは右クリック→すべて展開します。

2. Windowsの確認を読む

発行元やダウンロード元を確認します。見覚えのない実行ファイルは開きません。本セットにはコード署名を付けていません。

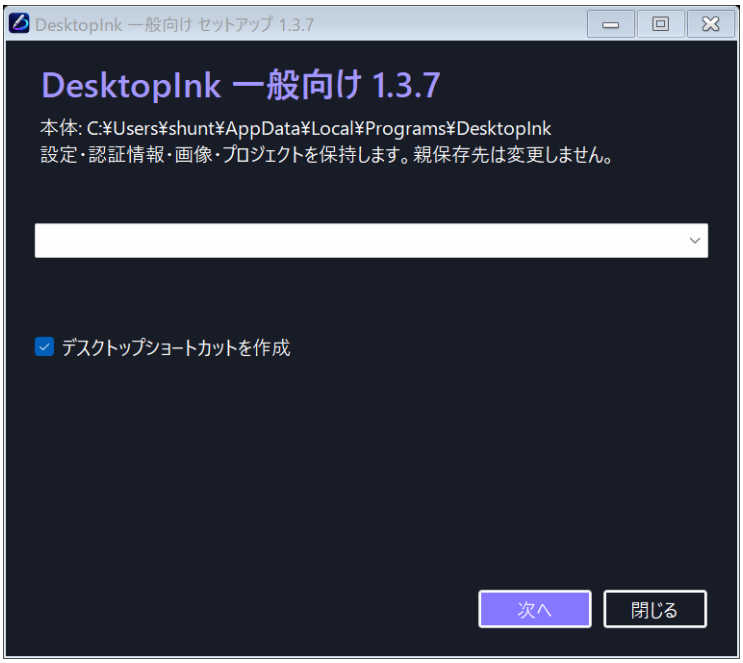
3. インストールを始める

DesktopInkを使用中なら、未保存内容を保存し、操作バーの「… → 終了」で閉じます。

操作のポイント

警告だけで安全・危険は断定できません。ウイルス検出・別の警告・実行ボタンなしの場合は実行せず配布元に確認。保護機能を無効にする必要はありません。

Setup.exe でインストールする



DesktopInk 1.3.7 実画面の操作例

1. Setup.exeを開く

一般向けセットのSetup.exeを実行します。未導入なら「新規インストール」が表示されます。

2. 親保存先を選ぶ

既定はピクチャ内のDesktopInkです。「参照…」で変更できます。初回はフォルダー1だけを作成します。

3. ショートカットを選ぶ

デスクトップにアイコンが必要ならチェックを入れます。「次へ」で本体と保存先を確認します。

4. インストールする

新規インストールボタンを押します。完了後は閉じ、デスクトップまたはスタートメニューのDesktopInkから起動します。

操作のポイント

本体はユーザーのAppData¥Local¥Programs¥DesktopInk、設定はAppData¥Local¥DesktopInkです。本体と撮影データを分離します。管理者権限を要求しないユーザー別インストールです。

ツールバーの13個のボタン



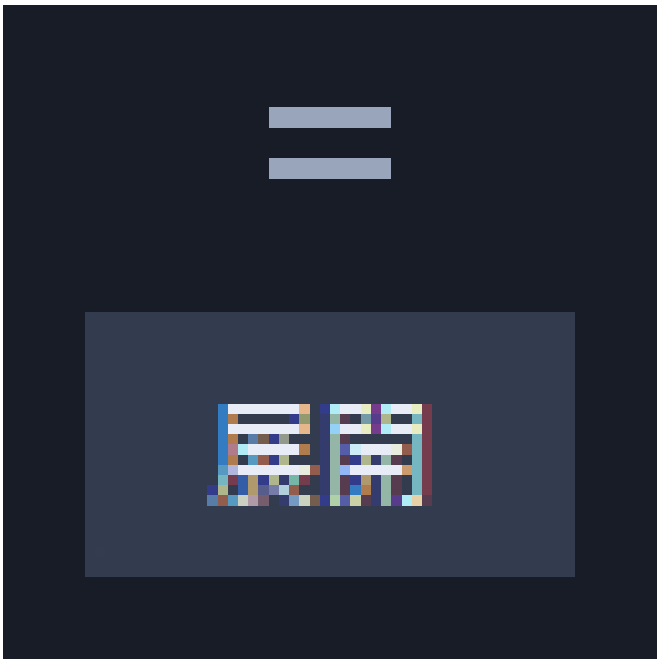
DesktopInk 1.3.7 実画面の操作例

1. マウス
通常のPC操作と描画を切り替えます。
2. 選択
文字・線・図形を選択して移動します。
3. 線
直線を描きます。右クリックでフリーハンド・折れ線を選択。
4. 図形
矢印・四角形・楕円・曲線などを選択します。
5. T・文字
文字入力。右クリックで文字の背景色を変更。
6. 色の丸
線や文字の色を変更します。
7. 線の太さ
線幅を選択。文字サイズを個別指定していない場合は文字サイズにも連動します。
8. レイヤー
描画先と表示・非表示を切り替えます。
9. ごみ箱
確認後、全レイヤーの描画を消去。背景画像は残ります。
10. カメラ
範囲選択・現在モニター・全モニターを撮影。
11. モニター
描画するモニターを選択します。
12. 編集画面
詳細な設定と編集画面を開く／隠す操作です。
13. …
保存・画像書き出し・縦横切替・終了など。

操作のポイント

「-」は折りたたみ、二本線は移動用のつまみです。13個の描画・操作ボタンとは別です。ボタンにマウスを置くと説明が表示されます。

操作バーを小さく折りたたむ



DesktopInk 1.3.7 実画面の操作例

1. 小さくする

バーの「-」を押します。描画内容を残したまま64×64ピクセルの小さい表示に変わります。

2. 場所を動かす

上部の二本線のつまみをドラッグします。小さい状態でも移動できます。

3. 元に戻す

「展開」を押します。元の縦／横向きの操作バーへ戻ります。

操作のポイント

折りたたみは終了ではありません。描画中の線や設定はそのまま残ります。終了は「… → 終了」です。

ツールバーの位置を動かす



DesktopInk 1.3.7 実画面の操作例

1. 持ち手を見つける

横向きでは左端、縦向きでは上端にある二本線が移動用の持ち手です。

2. 押したまま動かす

持ち手でマウスの左ボタンを押し、離さずに好きな場所まで動かします。

3. 位置を決めて離す

画面や作業を隠さない位置で左ボタンを離します。

操作のポイント

②の矢印は図形を選ぶボタンです。ツールバー本体を移動するには、画像の赤枠で示した二本線を使います。

ツールバーを縦向き・横向きに変える



DesktopInk 1.3.7 実画面の操作例

1. ⑫の…を開く

ツールバー端の三つの点を左クリックします。

2. 向きを選ぶ

横向きなら「ツールバーを縦向きに」、縦向きなら「ツールバーを横向きに」を選びます。

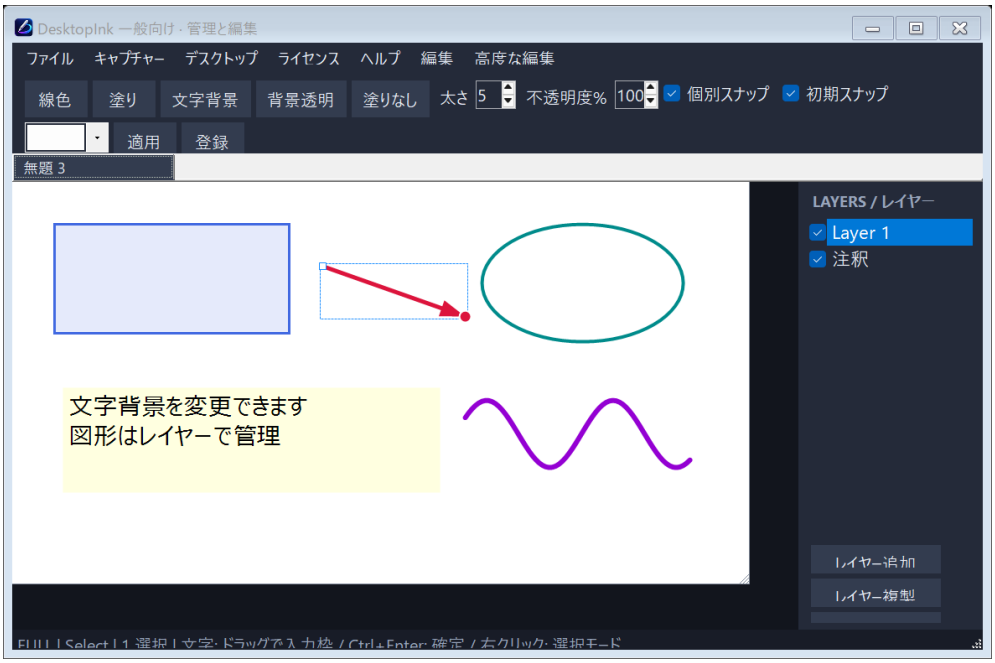
3. 元に戻す

もう一度ツールバーの「…」を開き、反対の向きを選びます。

操作のポイント

向きを切り替えても描画内容は消えません。持ち手をドラッグする移動操作とは別です。

詳細設定・編集画面を開く／隠す



DesktopInk 1.3.7 実画面の操作例

1. ⑪の管理アイコンを押す

画像の赤枠で示した⑪を左クリックします。横向きでは右から2番目、ツールバーの「…」の隣にある画面の形のボタンです。大きな管理・編集画面が開きます。

2. 編集に使う場所

上にメニューとスタイル設定、中央にキャンバス、右にレイヤーがあります。画像が大きい場合はスクロールします。

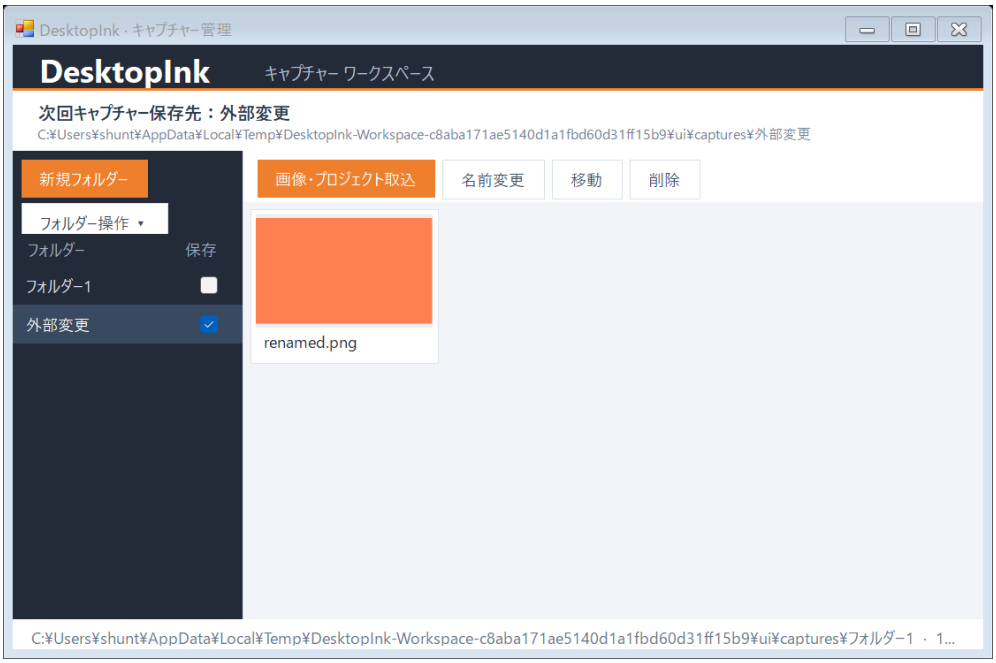
3. 隠す

もう一度管理アイコン、または編集画面の×で非表示にします。ソフトは終了しません。

操作のポイント

スタイル変更は選択中の図形にも適用されます。通常PC操作へ戻すにはマウスアイコンを使います。

キャプチャー管理画面の見方



DesktopInk 1.3.7 実画面の操作例

1. 通知領域から開く

Windows右下のDesktopInkアイコンを左クリックします。

2. 左でフォルダーを選ぶ

フォルダー名をクリックすると右側の一覧だけが切り替わります。

3. 右で画像を探す

画像はサムネイル、.dinkは編集用プロジェクトとして表示します。ダブルクリックで編集画面へ開きます。

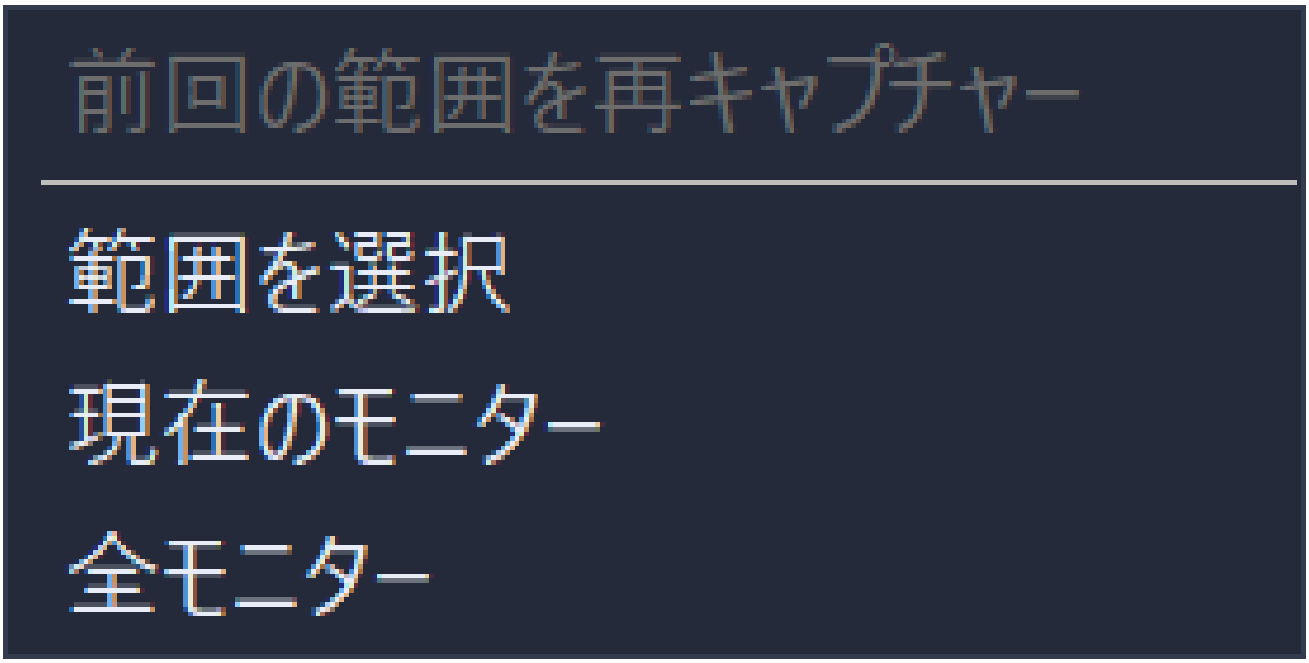
4. 上部の保存先を確認

「次回キャプチャー保存先」に、次の撮影先の名前と実パスを表示します。

操作のポイント

ツールバーの編集ボタンは詳細設定・編集画面用です。画像一覧は通知領域、または編集画面の「ファイル → キャプチャー管理を開く」から開きます。

カメラから撮影方法を選ぶ



DesktopInk 1.3.7 実画面の操作例

1. カメラを左クリック

ツールバーのカメラのアイコンを押します。

2. 範囲を選択

必要な場所だけを切り取る場合は「範囲を選択」を押します。

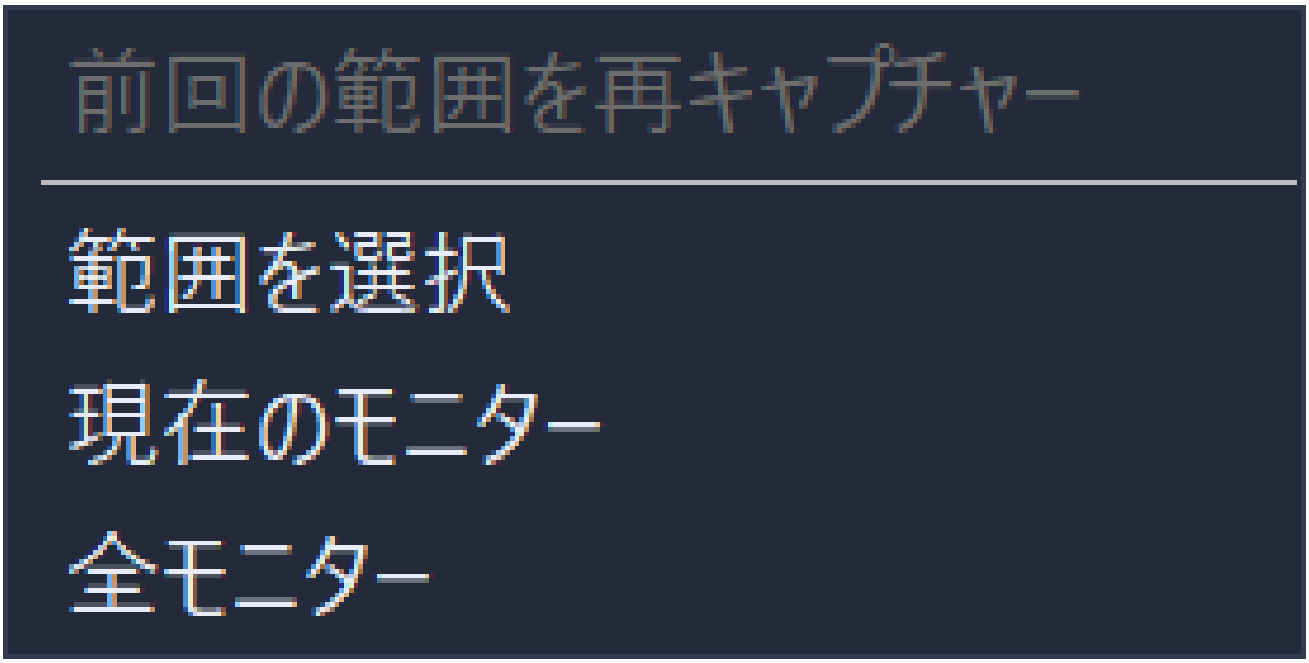
3. 画面全体の場合

「現在のモニター」または「全モニター」を選びます。違いは後の撮影ページで説明します。

操作のポイント

メニュー画像はアプリと同じ部品で再現した操作例です。範囲撮影前は「前回の範囲」が無効です。

範囲をドラッグして撮る



DesktopInk 1.3.7 実画面の操作例

1. 左上から開始

撮りたい部分の左上で左ボタンを押したままにします。

2. 右下まで動かす

押したまま右下へ動かし、赤い枠で撮影範囲を囲みます。

3. ボタンを離す

範囲が決まったら離します。撮影した部分が編集画面の背景に表示されます。

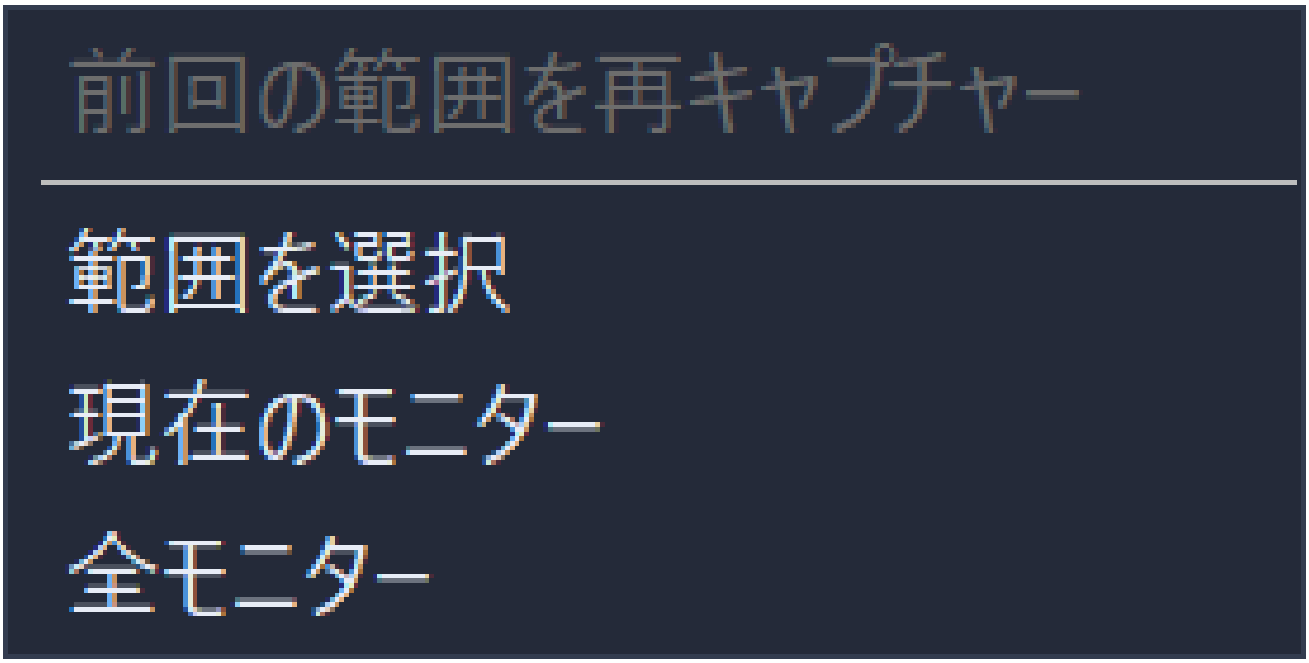
4. やめる場合

範囲選択中にEscを押すとキャンセルします。

操作のポイント

撮影した元画像は、管理画面の「次回キャプチャー保存先」に指定した実フォルダーへPNGで自動保存します。

キャプチャー後に編集を始める



DesktopInk 1.3.7 実画面の操作例

1. 画像が見えることを確認

編集画面中央のキャンバスに、撮影した画像が背景として表示されます。

2. 道具を選ぶ

ツールバーの図形から矢印・長方形、またはTで文字を選びます。

3. 画像の上に描く

キャンバス上をドラッグします。元のブラウザーやファイルを直接変更する操作ではありません。

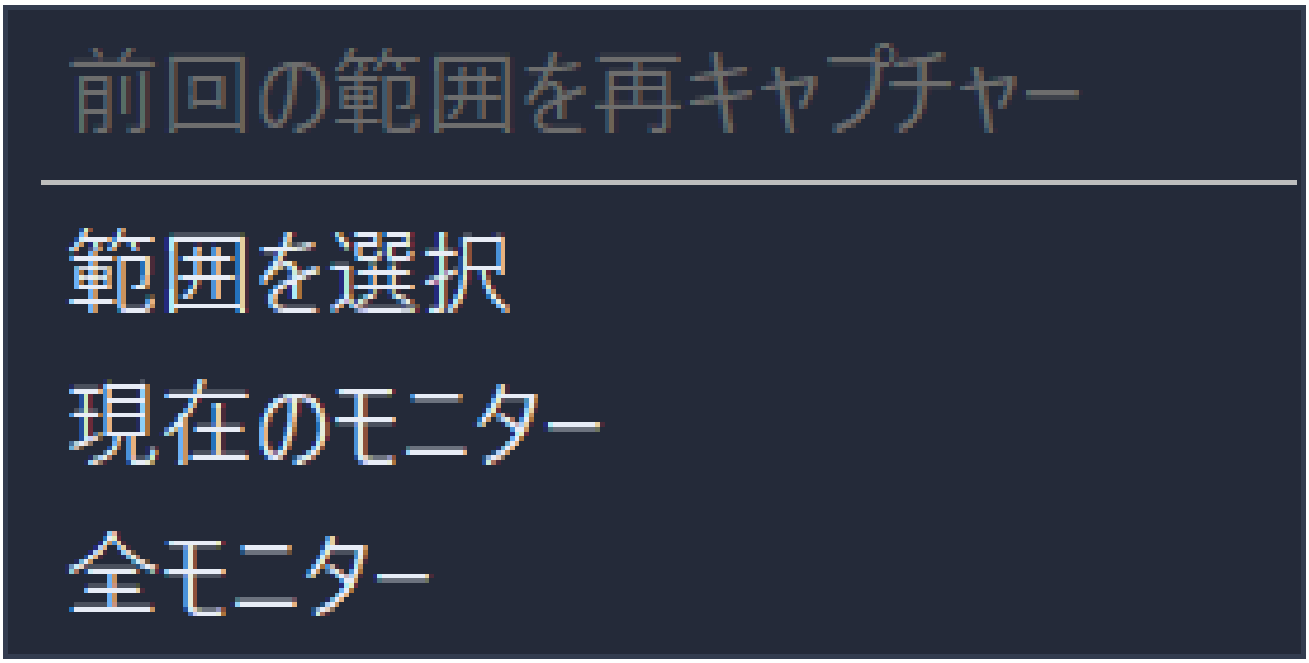
4. 位置を直す

右クリックで選択モードへ切り替え、追加した図形をクリックして移動します。

操作のポイント

撮影前にDesktopInkの画面・ツールバー・メニューを一時的に隠し、画面更新を待ちます。以前の画像に写り込んだ枠は自動では消えません。新しい撮影で確認してください。

前回と同じ範囲を撮り直す



DesktopInk 1.3.7 実画面の操作例

1. 最初に範囲撮影

一度カメラ → 範囲を選択で撮影しておきます。

2. 元の画面を変更

撮りたいアプリの表示を変えます。描画中ならマウスボタンでPC操作へ戻します。

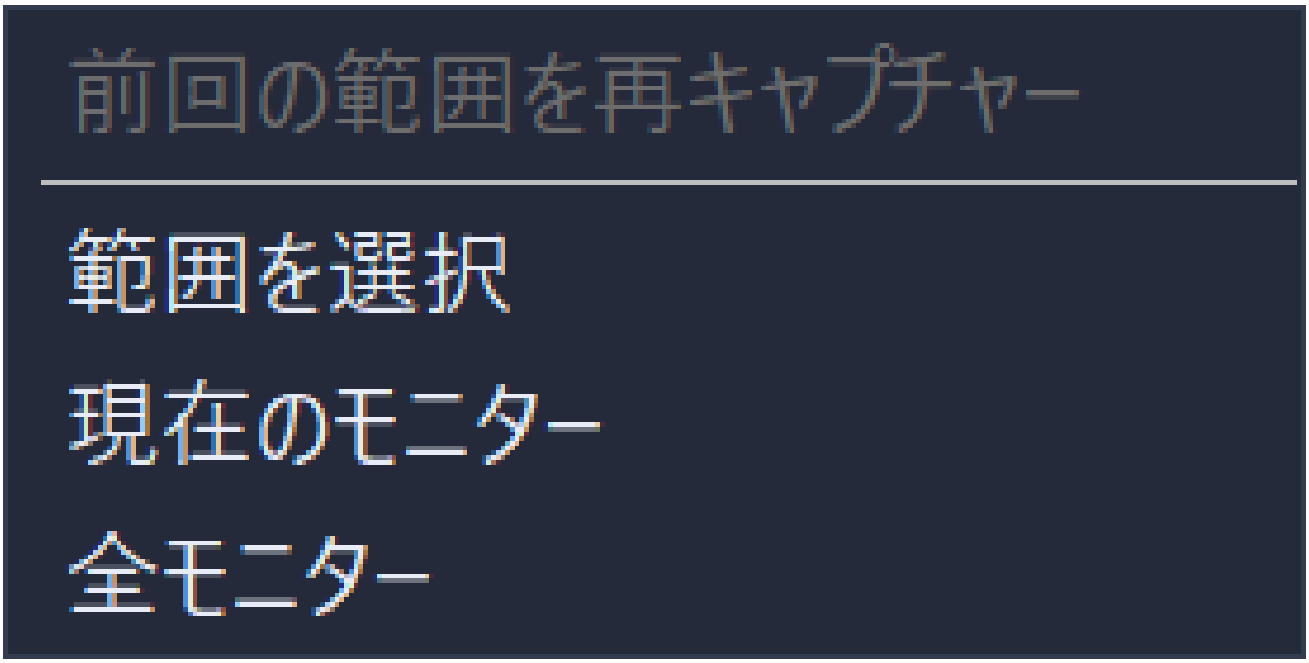
3. 前回の範囲を選ぶ

カメラ → 前回の範囲を再キャプチャーを押します。同じ位置・大きさで現在の画面を撮ります。

操作のポイント

以前の画像を再利用する機能ではありません。範囲は起動中のみ記憶。撮り直しでは背景が変わり、編集可能な既存図形は残ります。無料版ロック後は新規プロジェクトになります。

現在モニター／全モニターを撮る



DesktopInk 1.3.7 実画面の操作例

1. 1台だけ撮る

編集画面のキャプチャー → 現在のモニターを押します。編集画面のあるモニターが対象です。

2. ツールバーから撮る

カメラ → 現在のモニターではツールバーのある画面を対象にします。

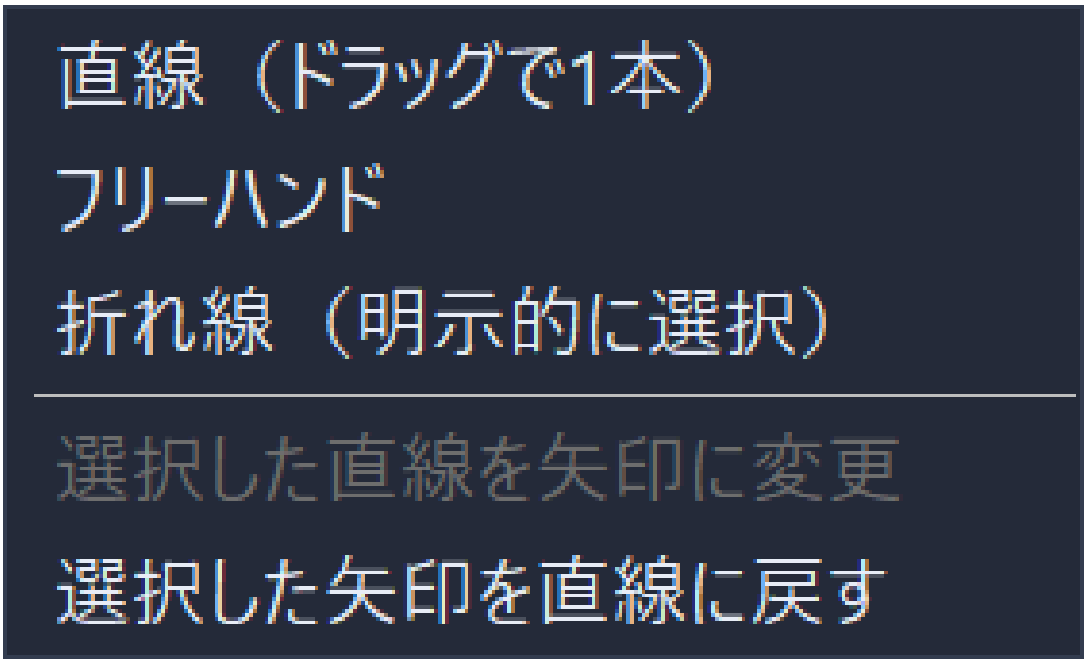
3. 全部を撮る

全モニターを選ぶと、Windowsの仮想デスクトップ全体を1枚にします。

操作のポイント

撮影対象が大きいほどメモリーを使います。必要な1台や範囲だけを撮る方が画像サイズを抑えられます。専用ウィンドウ・遅延・スクロール撮影は未実装です。

右クリックで線の種類を変える



DesktopInk 1.3.7 実画面の操作例

1. 右クリックする場所

ツールバーの線アイコンにマウスを合わせ、右ボタンを1回押します。キャンバス上ではありません。

2. メニューから選ぶ

直線・フリーハンド・折れ線の中から、使いたい種類を左クリックします。

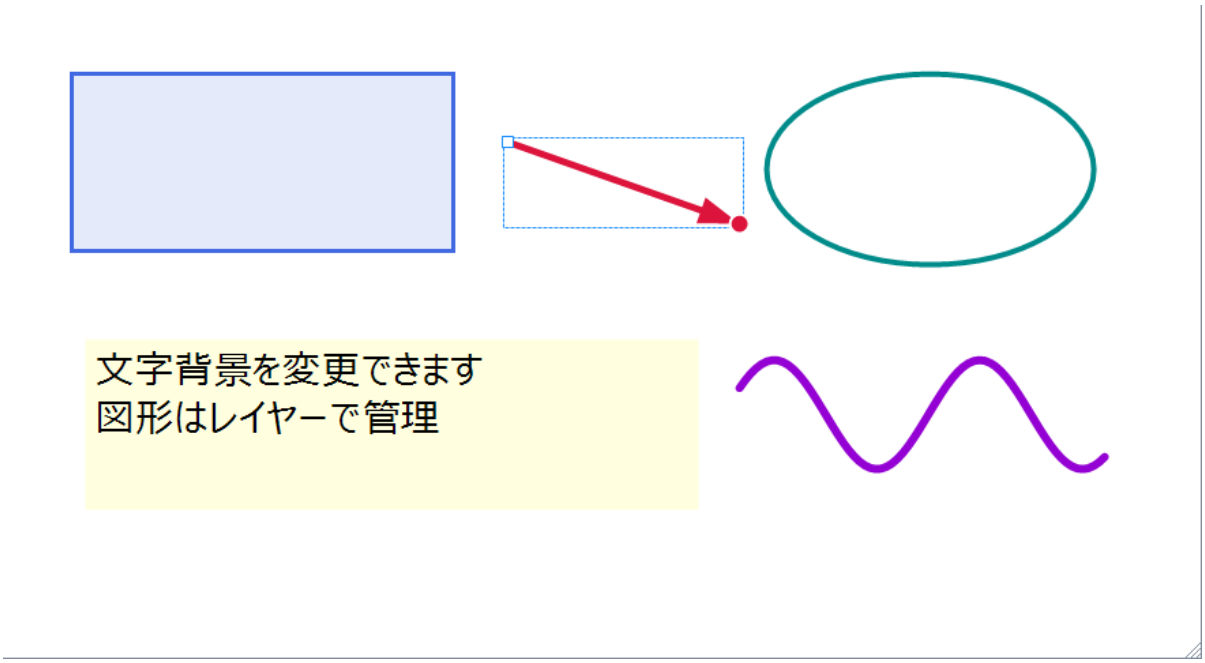
3. 選んだ線で描く

キャンバス上で操作します。直線はドラッグ、折れ線はクリックで頂点を追加します。

操作のポイント

線アイコンの右クリックは描画ツールの切替です。キャンバスの何もない場所の右クリックは選択モードへ切り替えます。
選択中の赤い点を右クリックすると、その1件の操作パネルを開きます。

直線を1本ずつ引く



DesktopInk 1.3.7 実画面の操作例

1. 直線を選ぶ

線アイコンを右クリック → 直線（ドラッグで1本）を左クリックします。起動時の初期状態も直線です。

2. 始点で押す

キャンバス上の線を引き始めたい位置で左ボタンを押します。

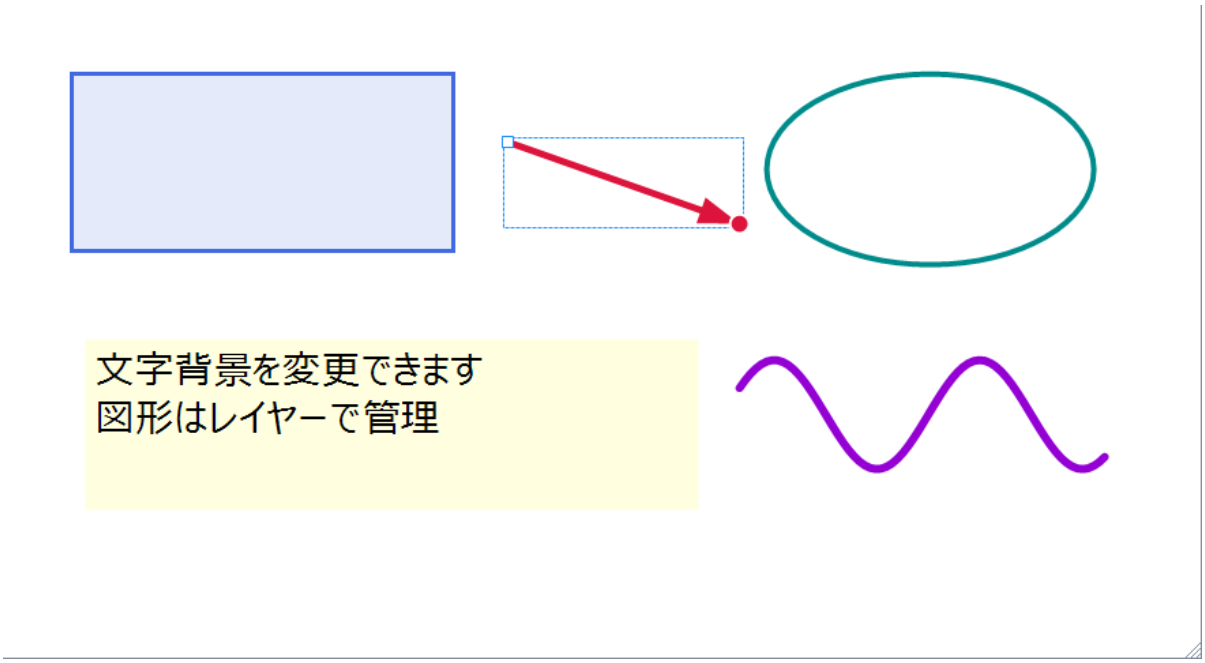
3. 終点までドラッグ

押したまま動かし、終点でボタンを離します。もう一度ドラッグすると別の直線を作ります。

操作のポイント

自動的に折れ線にはなりません。選択表示の中央の丸は、直線をあとから曲げるためのハンドルです。

フリーハンドで描く



DesktopInk 1.3.7 実画面の操作例

1. フリーハンドを選ぶ

線アイコンを右クリックして「フリーハンド」を選びます。

2. 押したまま描く

左ボタンを押したまま動かします。離すと1本の線として確定します。次のドラッグは別の線です。

3. 太さと色を調整

線色と太さを選びます。選択済みの線にも適用できます。端と接合部は丸い連続線として描画します。

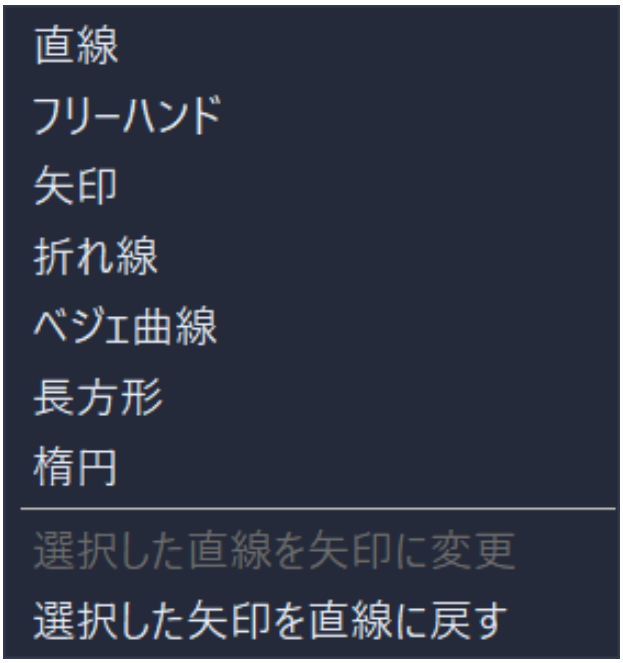
4. 線全体を移動

右クリックで選択モードへ切り替え、線をドラッグします。途中の点をつまむハンドルは表示しません。

操作のポイント

入力した点を連続した線で結びます。過度な平滑化を行わず、手書き文字の角や細かい筆跡を保持します。速度によって記録される点の数は変わります。

矢印を描く／直線をあとから矢印に変更



DesktopInk 1.3.7 実画面の操作例

1. 新しく矢印を描く

④の図形メニュー → 矢印を選び、始点から終点までドラッグします。

2. 直線をあとから選ぶ

②の選択・移動を押し、変更したい直線をクリックします。

3. 矢印へ変更

選択した線の終点にある赤い点を右クリックし、操作パネルの「線の種類」を「矢印」にします。従来の図形メニューや編集メニューからも変更できます。

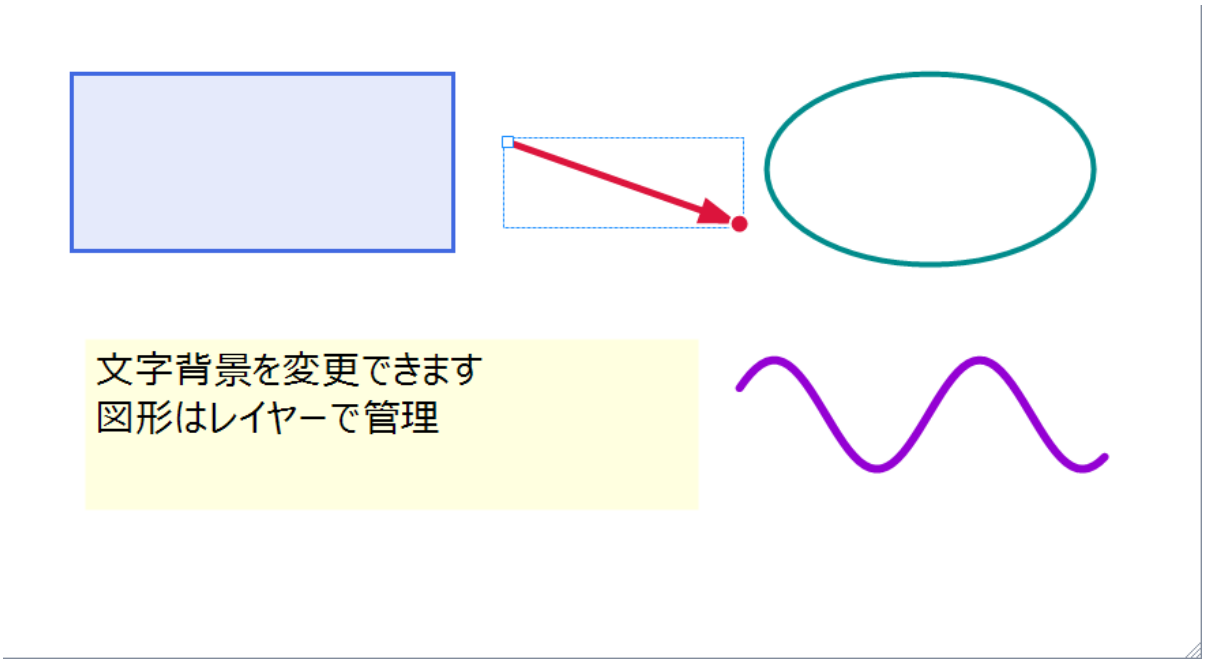
4. 直線へ戻す

矢印を選び、同じメニューの選択した矢印を直線に戻すを押します。

操作のポイント

位置・長さ・線色・太さ・不透明度はそのままです。終点に矢じりが付きます。2点の直線・矢印が対象で、曲線や折れ線は変換しません。無料版で保存後にロックされたものはフル版認証が必要です。

長方形と楕円で囲む



DesktopInk 1.3.7 実画面の操作例

1. 種類を選ぶ

図形アイコン → 長方形、または楕円を左クリックします。

2. 囲みたい範囲をドラッグ

左上から右下へドラッグし、ボタンを離します。

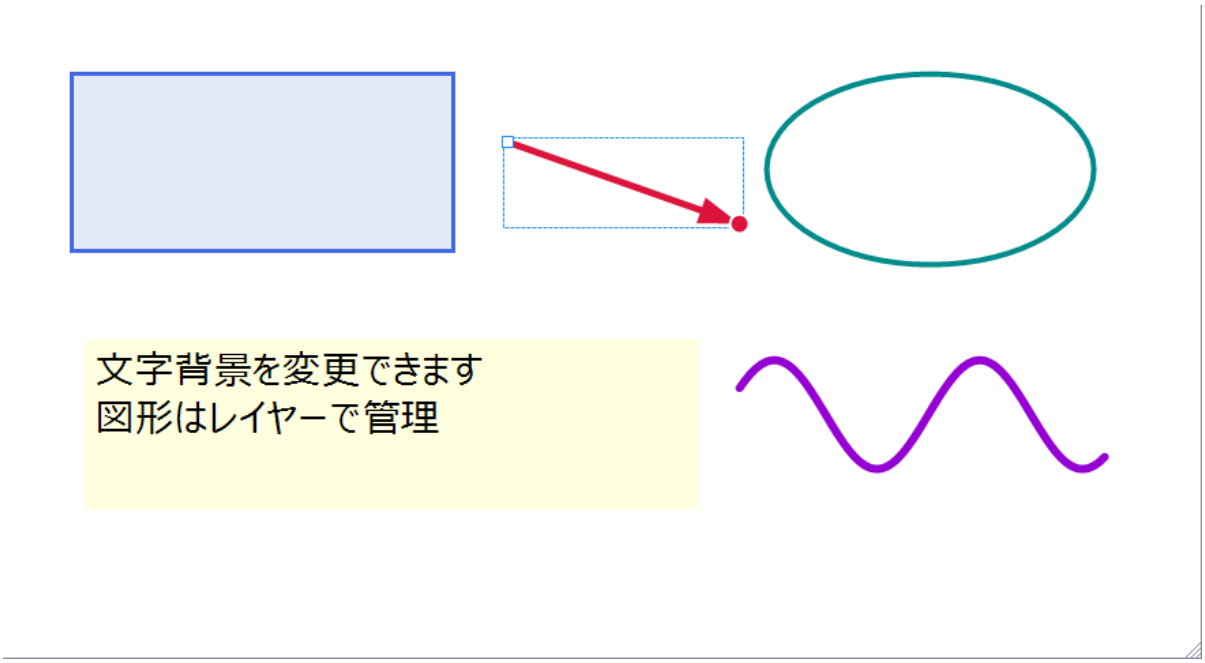
3. 見た目を整える

線色・太さを変更。中を透かしたい場合は編集画面で塗りなしを選びます。

操作のポイント

正方形・正円への縦横比固定、図形の回転は未実装です。楕円も長方形と同じドラッグ操作で作ります。

折れ線の頂点を追加・確定する



DesktopInk 1.3.7 実画面の操作例

1. 折れ線を選ぶ

線アイコンを右クリック → 折れ線、または図形メニュー → 折れ線を選びます。

2. 頂点をクリック

始点をクリックし、次の曲がり角を順にクリックします。

3. Enterで確定

最後の頂点まで進んだらEnterを押します。折れ線モードのまま次を作れます。

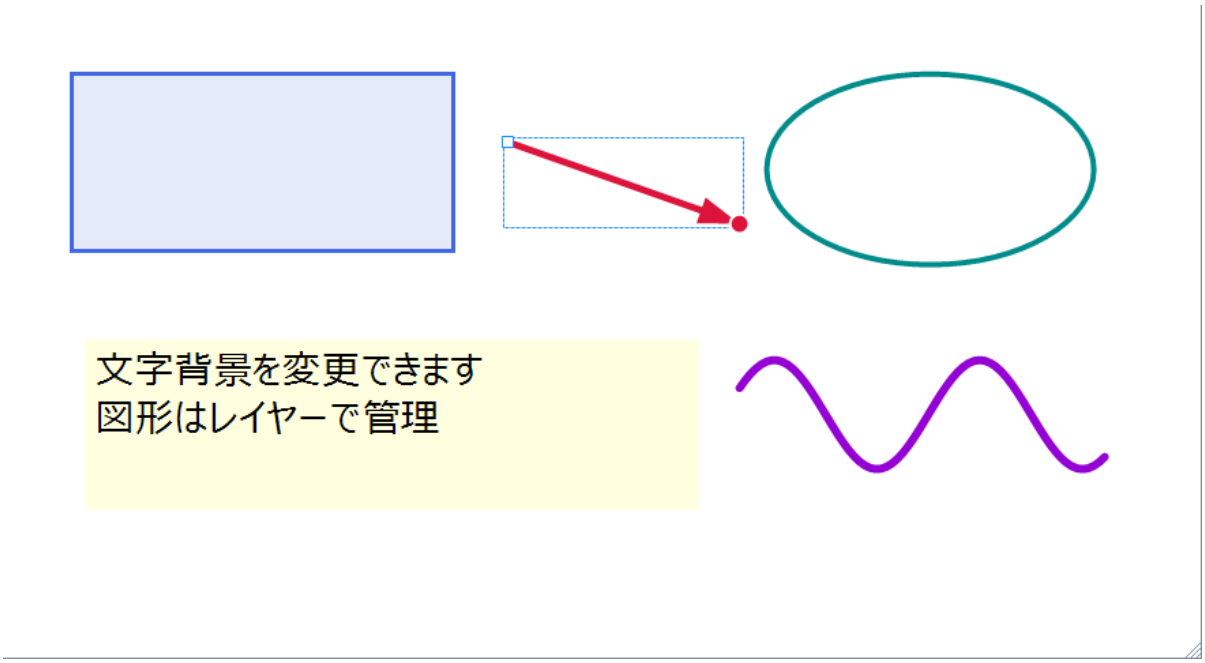
4. 右クリックで終了

右クリックは折れ線の確定と選択モードへの切替を同時に行います。

操作のポイント

Escも現行版では確定扱いです。取消ではありません。不要な折れ線は選択して削除してください。

ベジェ曲線を作る



DesktopInk 1.3.7 実画面の操作例

1. ベジェ曲線を選ぶ

図形メニューからベジェ曲線を選びます。

2. 始点と終点を作る

キャンバス上をドラッグして線の両端を決めます。

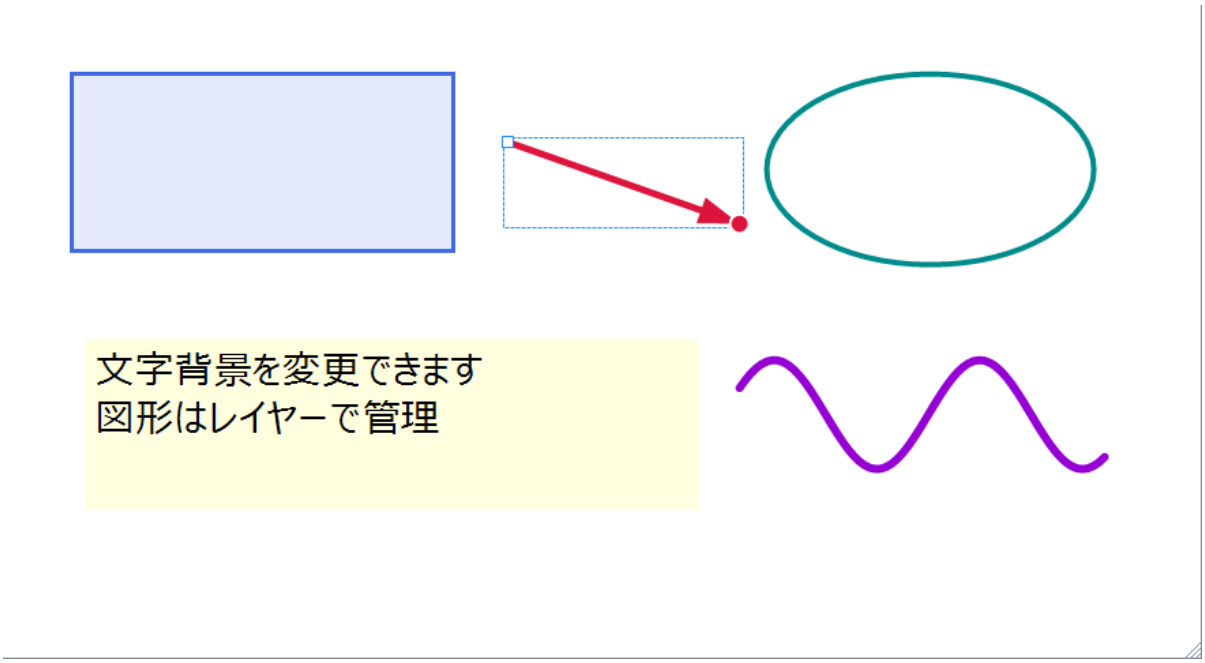
3. ハンドルで調整

右クリックで選択へ切り替え、曲線をクリックします。青い四角の制御点をドラッグして形を整えます。

操作のポイント

1本の三次ベジェを扱います。複数区間をつなぐベジェや、回転機能は未実装です。

描画から選択に切り替えて動かす



DesktopInk 1.3.7 実画面の操作例

1. 選択に切替

ツールバーの矢印アイコンを押すか、キャンバス上で右クリックします。

2. 対象をクリック

移動したい線・図形・文字をクリックします。青い選択枠やハンドルが出れば選択済みです。

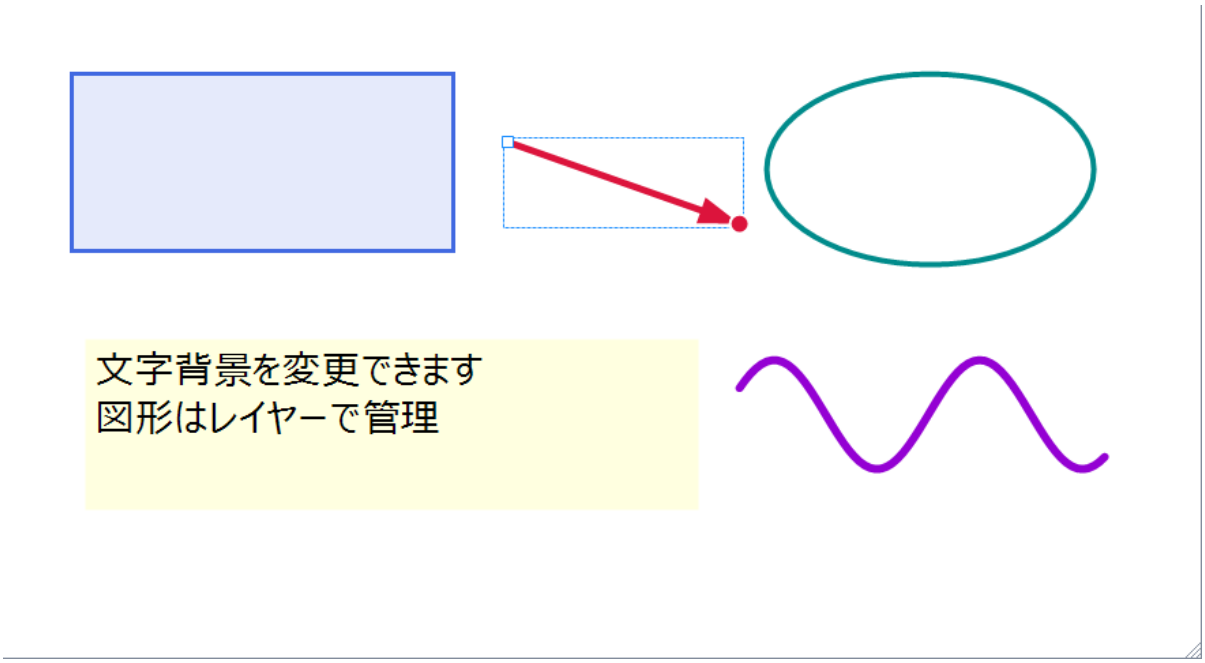
3. 本体をドラッグ

ハンドル以外の部分を押したまま動かし、好きな位置で離します。

操作のポイント

矢印の選択ボタンは「図形を選ぶ」機能です。元のPC操作へ戻すマウスボタンとは異なります。無料版のロック後は選択しても編集できません。

大きさ・頂点をハンドルで変える



DesktopInk 1.3.7 実画面の操作例

1. 対象を1つ選ぶ

選択モードで図形をクリックします。

2. 青い四角を探す

線は端点、図形や文字は枠のハンドル、曲線は制御点が表示されます。

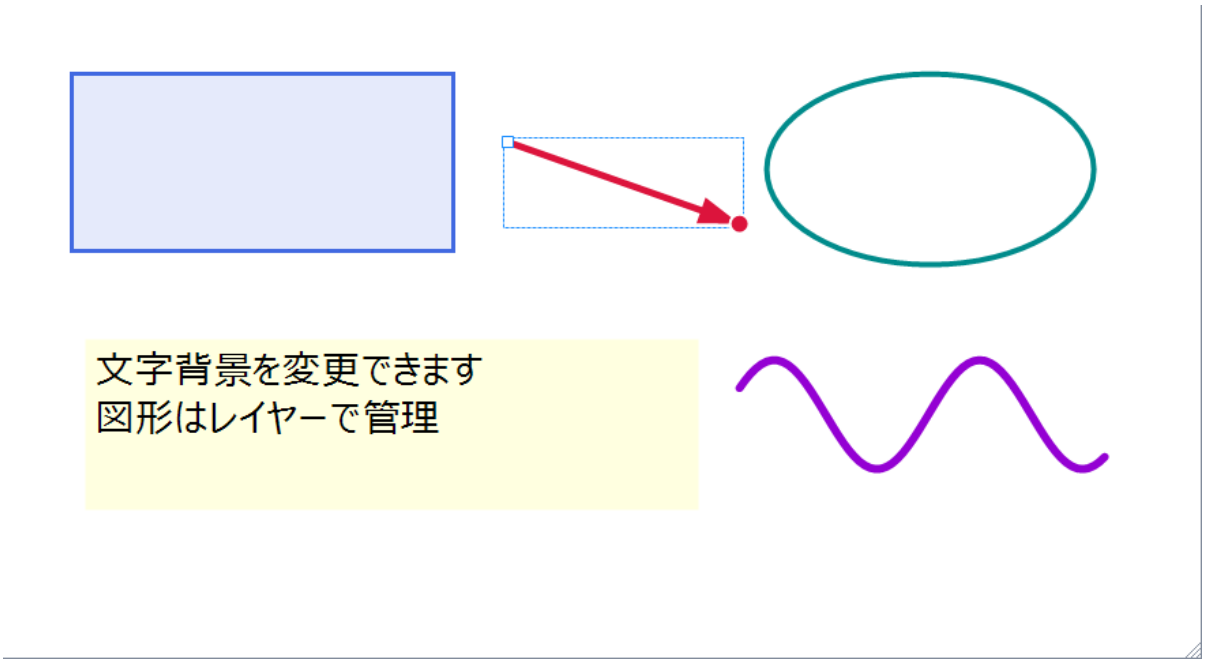
3. 四角をドラッグ

押したまま動かして大きさや形を変えます。図形本体の移動と混同しないようにします。

操作のポイント

曲線の近くでも外接矩形で選ばれる場合があります。グループ全体の拡縮・縦横比固定・回転は未実装です。 フリーハンドの線は点の編集を行わず、線全体を移動します。

引いた直線をあとから曲げる



DesktopInk 1.3.7 実画面の操作例

1. 直線を1本選ぶ

選択モードにして直線をクリックします。複数選択は解除しておきます。

2. 中央の丸をドラッグ

オレンジ色の丸を曲げたい方向へ動かします。線の端は固定したままカーブになります。

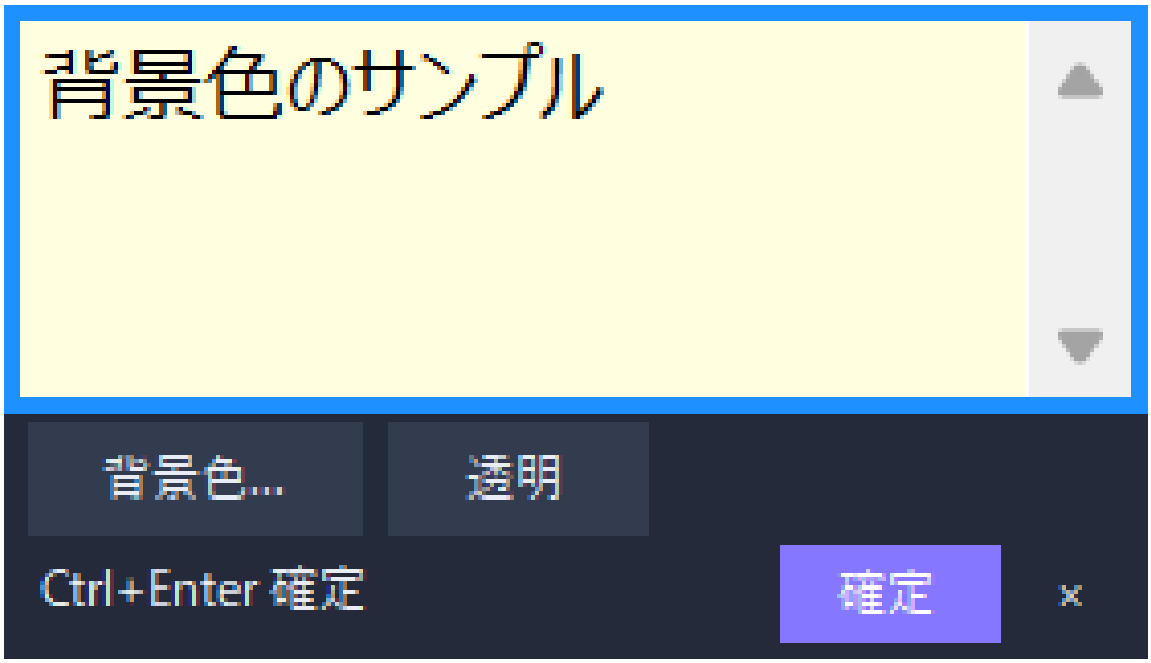
3. 青いハンドルで仕上げ

曲線になった後は青い制御点を動かし、カーブの形を調整します。

操作のポイント

中央の丸は通常の直線1本を選んだときに表示します。編集ハンドルは書出し画像には入りません。

画面上に入力枠を作って文字を入れる



DesktopInk 1.3.7 実画面の操作例

1. Tを左クリック

ツールバーの文字アイコンを選びます。

2. 入力する範囲をドラッグ

キャンバス上に枠を作ると白い入力欄が出ます。クリックだけでも既定サイズの枠になります。

3. 文字を入力

日本語・改行を入力できます。Enterは改行です。

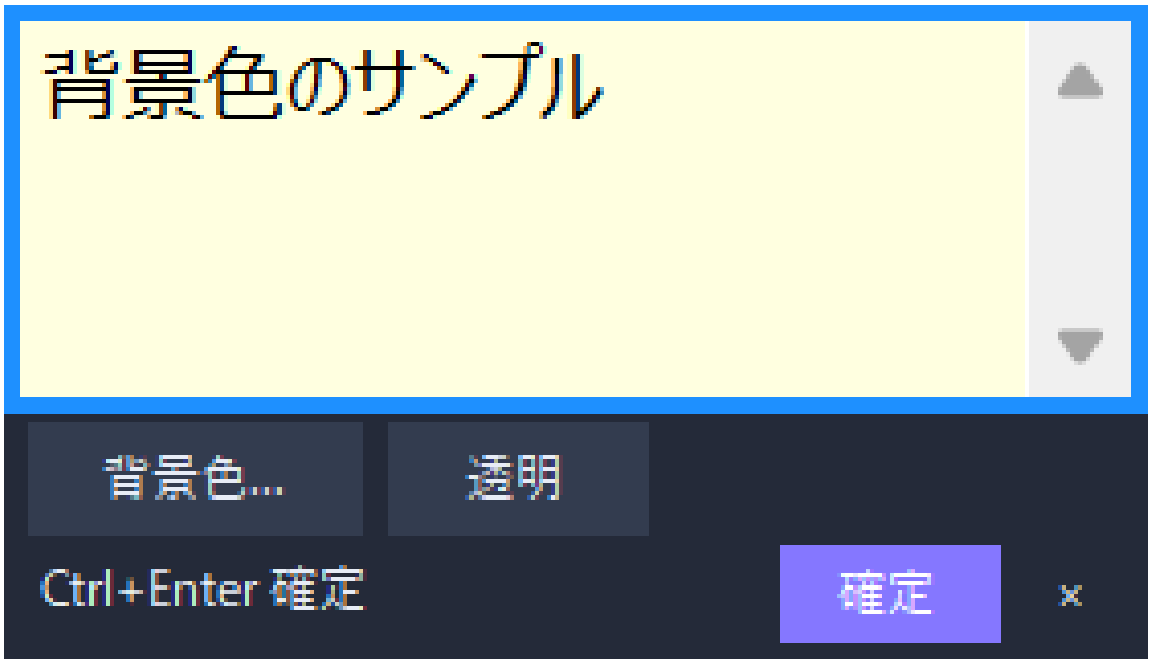
4. 確定する

入力欄下の確定、またはCtrl+Enterを押します。枠の外をクリックしても確定します。

操作のポイント

Escまたは×で入力を取り消します。新しい空欄は確定しても見えないオブジェクトを残しません。画像の白い入力枠が操作対象です。

文字を修正・移動・枠を広げる



DesktopInk 1.3.7 実画面の操作例

1. 選択モードへ戻る

矢印の選択アイコン、またはキャンバス上の右クリックを使います。

2. 文字をダブルクリック

その場に入力欄が開きます。編集画面の編集 → 文字を編集…も使えます。

3. 文章を直して確定

修正後に確定を押します。移動は文字本体をドラッグします。

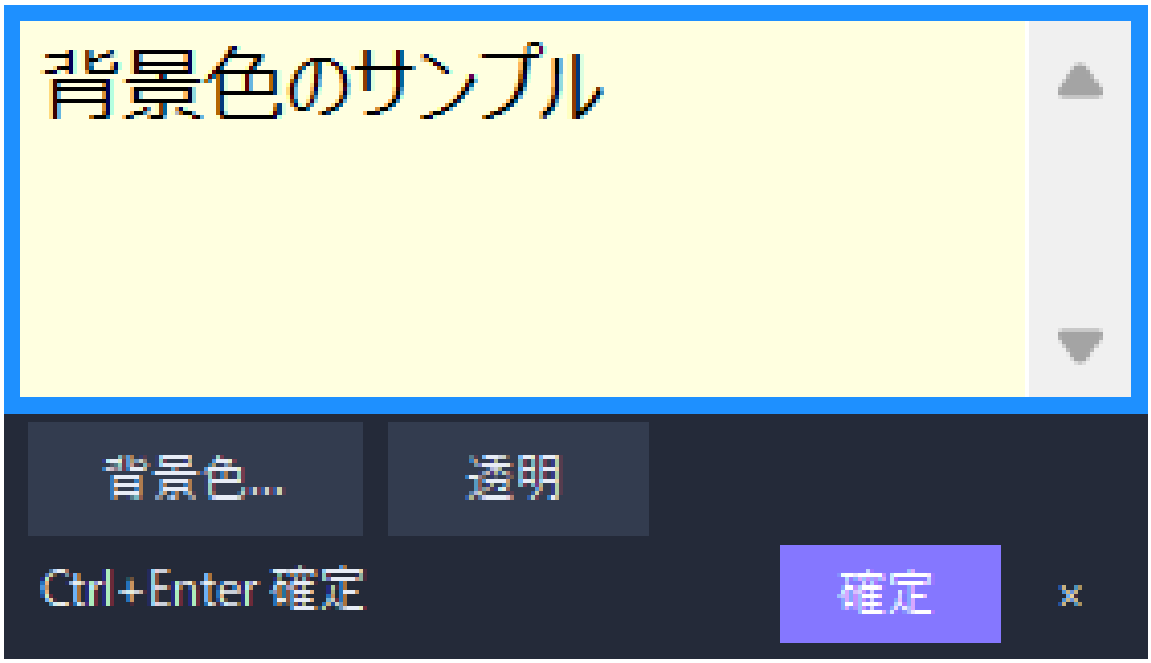
4. 見切れたら枠を広げる

選択時の青いハンドルを動かし、文字が全部収まる入力領域にします。

操作のポイント

文字色は線色と共通です。旧方式では文字サイズが線幅に連動しますが、赤い点のパネルで独立した文字サイズを設定できます。フォントの種類選択は未実装です。文字サイズは赤い点の右クリックパネルで個別に変更できます。

文字の背景色を指定する



DesktopInk 1.3.7 実画面の操作例

1. 文字の入力枠を開く

Tで枠を作って文字を入力します。既にある文字なら、選択ツールでその文字をダブルクリックして再編集します。

2. 入力枠の下の背景色を押す

入力欄のすぐ下にある「背景色…」を押し、色を選んで決定します。入力途中の文字はそのまま残ります。

3. 透明に戻す

隣の「透明」を押すと文字背景を透明に戻します。入力中は白い欄を表示しますが、確定・画像出力時は透明です。

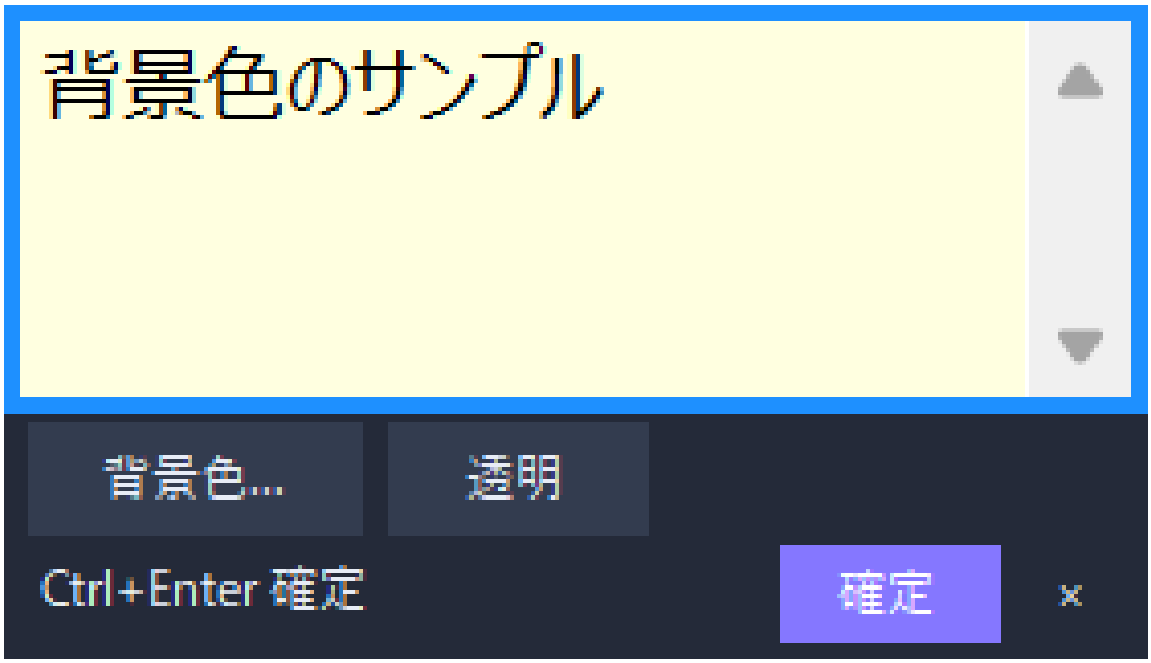
4. 確定する

文字と背景を確認して「確定」またはCtrl+Enterを押します。×やEscでキャンセルすると、既存文字の背景色も編集前へ戻します。

操作のポイント

Tボタンの右クリックや編集画面の「文字背景」「背景透明」も引き続き使えます。文字背景はプリセット、.dink、PNG/JPEGに反映します。

入力済みの文字背景を後から変更・透明に戻す



DesktopInk 1.3.7 実画面の操作例

1. 対象の文字を選ぶ

選択（矢印）で変更したい文字を選び、ダブルクリックして入力枠を開きます。

2. 下の背景色で変更する

入力欄の下にある「背景色…」を押し、好きな色を選びます。

3. 透明にする・確定する

透明へ戻す場合は「透明」を押し、変更後は「確定」を押します。

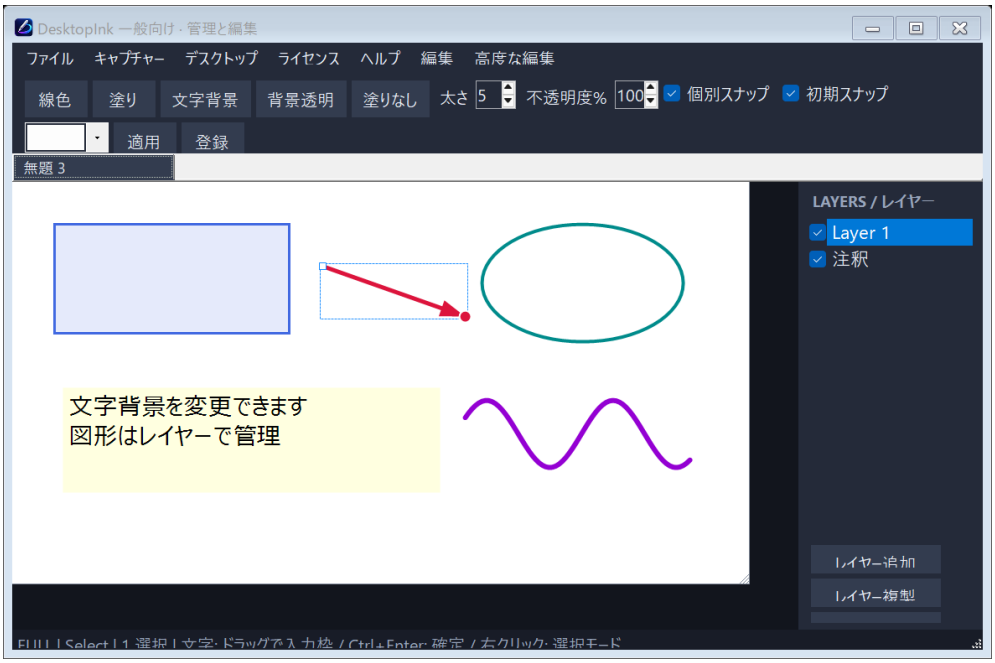
4. 必要なら保存し直す

変更を残すには.dinkを保存し直すか、PNG/JPEGを書き出し直します。

操作のポイント

文字を選択してTを右クリックする方法でも後から変更できます。背景色の選択ダイアログだけをキャンセルした場合、入力中の内容は保持します。

線色・文字色・太さを変える



DesktopInk 1.3.7 実画面の操作例

1. 新しく描く前に選ぶ

ツールバーの色の丸、太さアイコンから選択します。太さは1・3・5・8・12pxです。

2. 作成済みを変える

選択モードで図形を選んでから、色や太さを変更します。

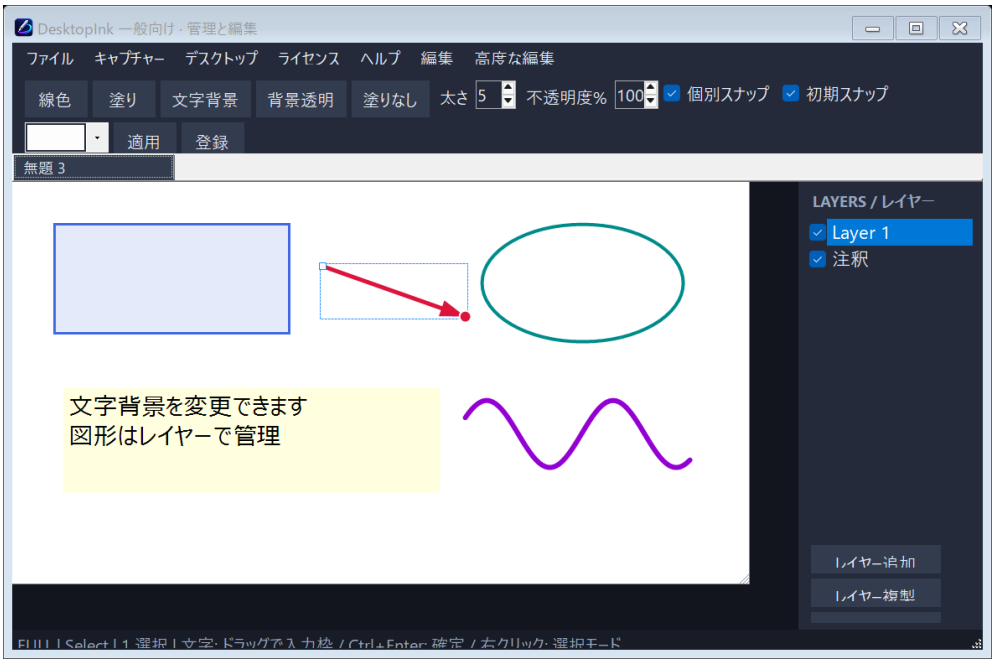
3. 細かい数値を使う

編集画面上の太さ欄では1〜40を指定できます。

操作のポイント

何も選択しなければ次に作る図形の設定になります。選択中は選択した図形にも反映します。文字サイズも線幅と連動します。

塗りつぶし・塗りなし・不透明度



DesktopInk 1.3.7 実画面の操作例

1. 図形を選ぶ

選択モードで長方形や楕円をクリックします。

2. 塗りを設定

編集画面の塗りを押し、色を選びます。枠線だけにする場合は塗りなしを押します。

3. 不透明度を指定

不透明度%を変更します。100は不透明、0は透明です。

操作のポイント

不透明度は線や塗りを含むオブジェクト全体に適用します。見えなくなったらレイヤー表示と不透明度を確認してください。
文字の背景は「文字背景」またはTの右クリックから別に指定します。

描くレイヤーを選ぶ／表示を切り替える



DesktopInk 1.3.7 実画面の操作例

1. レイヤー一覧を開く

ツールバーのレイヤーアイコンを左クリックします。

2. 描画先を選ぶ

左側のレイヤー名をクリックします。アイコンの小さな数字が現在の描画先です。

3. 表示を変える

右側の表示チェックで見せる・隠すを切り替えます。画像書出しにも反映します。

操作のポイント

非表示でも描画先に選べます。描いたものが見えない場合は表示を確認。背景画像をレイヤーに配置・差し替える機能は未実装です。

レイヤーを追加・複製する



DesktopInk 1.3.7 実画面の操作例

1. 新しいレイヤーを作る

ツールバーの一覧 → レイヤーを追加を押します。追加したレイヤーが描画先になります。

2. 管理画面で複製

右側の一覧で対象を選び、レイヤー複製を押します。そのレイヤーの線・図形・文字をコピーします。

3. 表示を確認

元と複製が同じ位置に重なります。必要なら表示チェックで片方を隠して確認します。

操作のポイント

レイヤー名変更・削除・並べ替え・ロックは未実装です。図形の重なり順はレイヤー番号と独立しています。

現在のレイヤーの描画を全部消す



DesktopInk 1.3.7 実画面の操作例

1. 対象レイヤーを選ぶ

レイヤー一覧で名前をクリックし、描画先を確認します。

2. 一覧をもう一度開く

現在のレイヤーを全消去…を押します。編集画面の編集メニューからも操作できます。

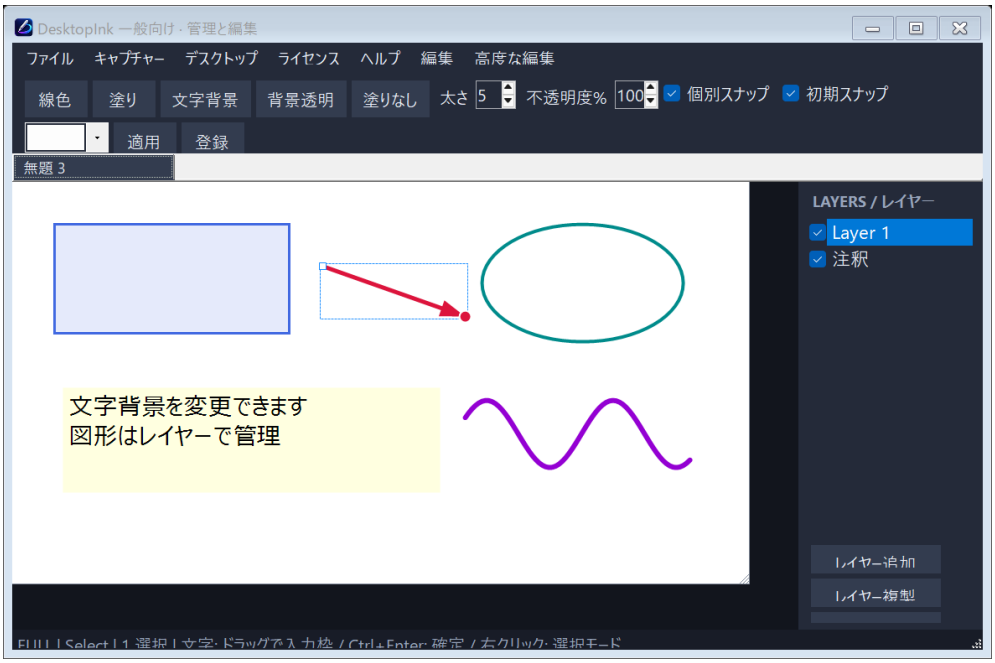
3. 確認して実行

消す対象を確認し、確認画面でOKを押します。

操作のポイント

背景・レイヤー自体・他のレイヤーの図形は残ります。Undoは未実装で戻せません。必要な内容は事前に保存。無料版は保存後に編集ロックされる点に注意してください。

全レイヤーの描画をまとめて消す



DesktopInk 1.3.7 実画面の操作例

1. 残したい内容を保存

この操作は元に戻せません。必要な内容は先に.dinkや画像へ保存します。

2. ごみ箱ボタンを押す

操作バーのごみ箱アイコンを押します。

3. 確認して消去

確認画面でOKを押すと全レイヤーの線・図形・文字を削除します。キャンセルで中止できます。

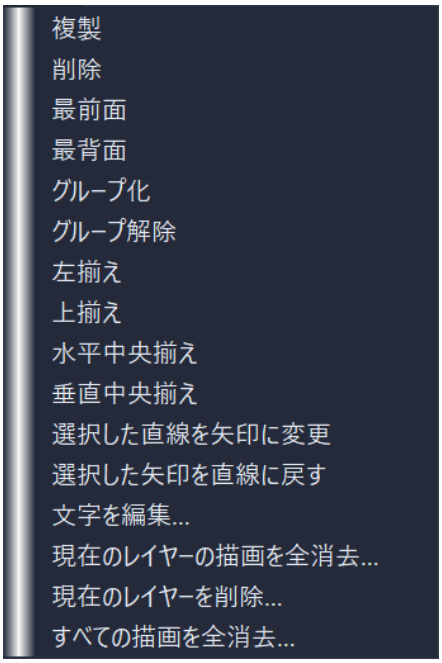
4. 残るものを確認

背景画像、レイヤー自体、保存済みのファイルは残ります。

操作のポイント

非表示レイヤーの描画も対象です。現在のレイヤーだけ消したい場合は、レイヤーメニューの「現在のレイヤーを全消去…」を使ってください。

複数選択・複製・削除



DesktopInk 1.3.7 実画面の操作例

1. 複数選択

選択モードでCtrlを押しながら、対象を順番にクリックします。

2. 複製

編集画面の編集 → 複製を選びます。コピーは少しずれた位置にでき、選択状態になります。

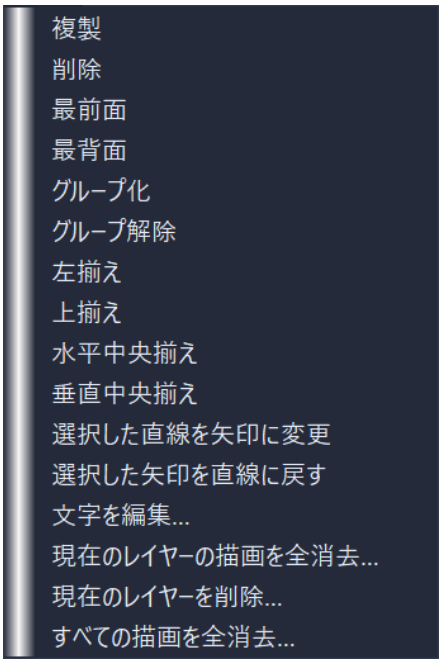
3. 削除

消したいものを選び、編集 → 削除を押します。

操作のポイント

削除や複製のUndoは未実装です。選択対象を確認してから実行してください。画面がロック中の場合は編集できません。

最前面・最背面／グループ化



DesktopInk 1.3.7 実画面の操作例

1. 重なり順を変更

図形を選択 → 編集 → 最前面、または最背面を選びます。

2. まとめる

Ctrl+クリックで複数選択し、編集 → グループ化を押します。

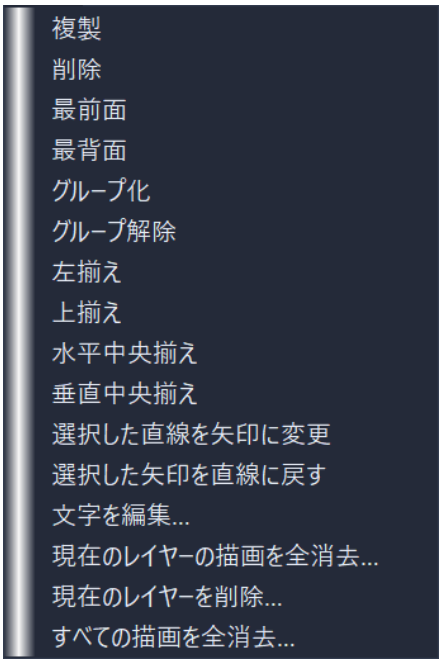
3. グループを移動

選択して本体をドラッグすると一緒に動きます。分ける場合はグループ解除を選びます。

操作のポイント

1段ずつ前後へ移す機能、ネストしたグループ、グループ全体の拡縮は未実装です。グループ化だけではレイヤーは統合されません。

左・上・中央に整列する



DesktopInk 1.3.7 実画面の操作例

1. 基準を先に選ぶ

選択モードで基準にしたい図形を先にクリックします。

2. 対象を追加

Ctrlを押しながら他の図形をクリックし、2つ以上を選択します。

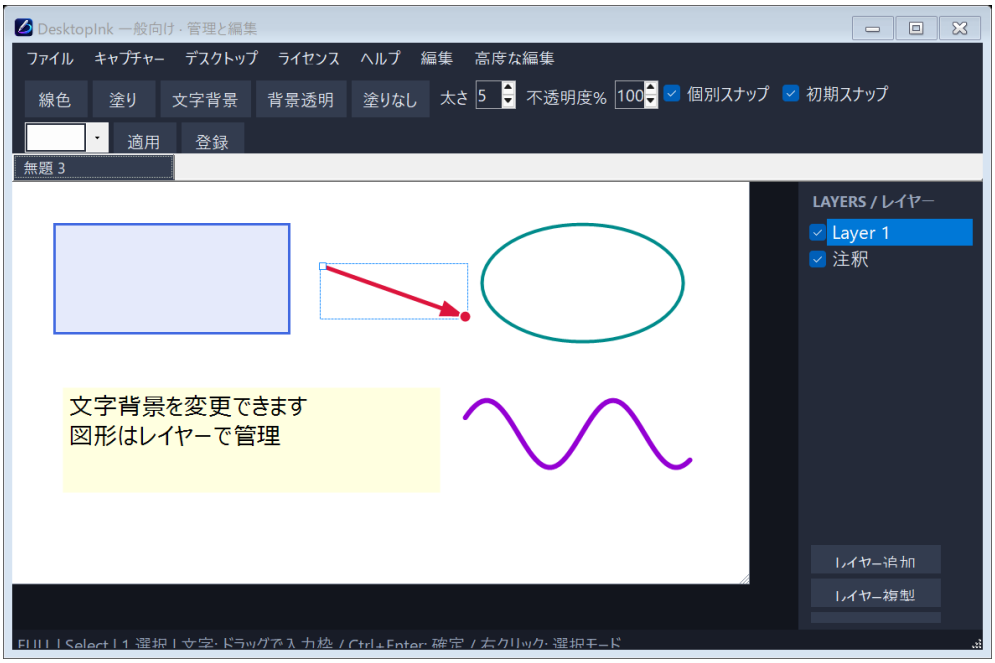
3. 整列を実行

編集 → 左揃え・上揃え・水平中央揃え・垂直中央揃えから選びます。

操作のポイント

最初に選んだオブジェクトを基準にそろえます。均等な間隔へ並べる機能は未実装です。

初期スナップと個別スナップ



DesktopInk 1.3.7 実画面の操作例

1. 初期値を決める

編集画面上の初期スナップにチェックを入れると、次に作る図形が10pxグリッドに吸着します。

2. 図形だけ変更

図形を選択し、個別スナップをオン／オフにします。選択した図形だけに適用します。

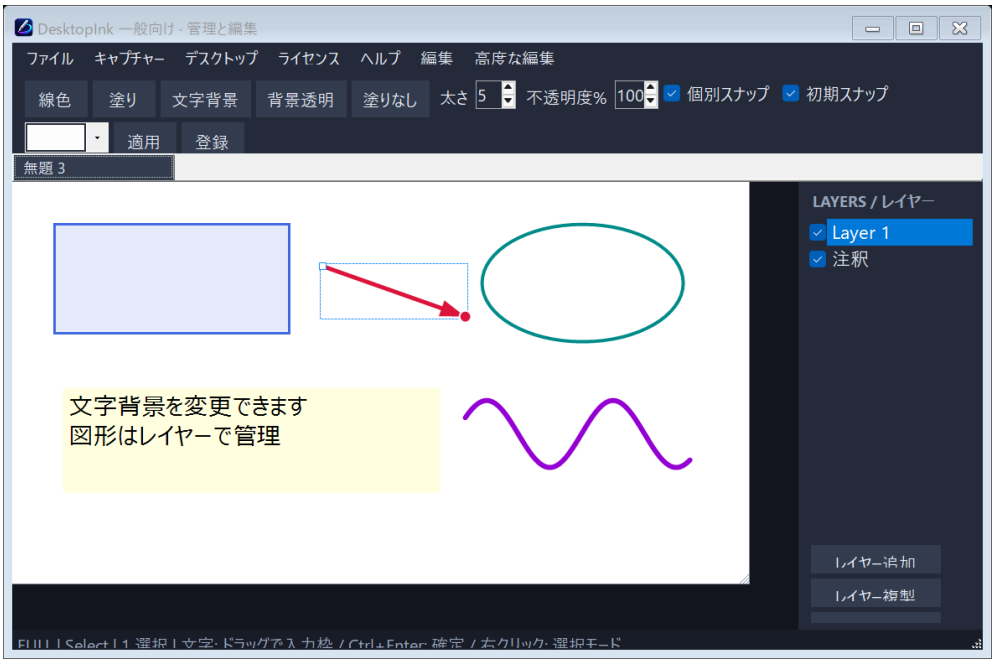
3. 細かく動かしたい場合

対象の個別スナップをオフにしてから位置を調整します。

操作のポイント

初期値はプロジェクト内の設定です。アプリ全体の永続設定・グリッド間隔変更・図形同士や角度へのスナップは未実装。フリーハンド描画には適用しません。

スタイルをプリセット登録・適用



DesktopInk 1.3.7 実画面の操作例

1. 好みの見た目を設定

線色・塗り・文字背景・太さ・不透明度と初期スナップを設定します。

2. 登録する

編集画面の「登録」を押し、最前面に出る名前入力欄で名前を入力してOKを押します。Enterでも確定、Escでキャンセルできます。

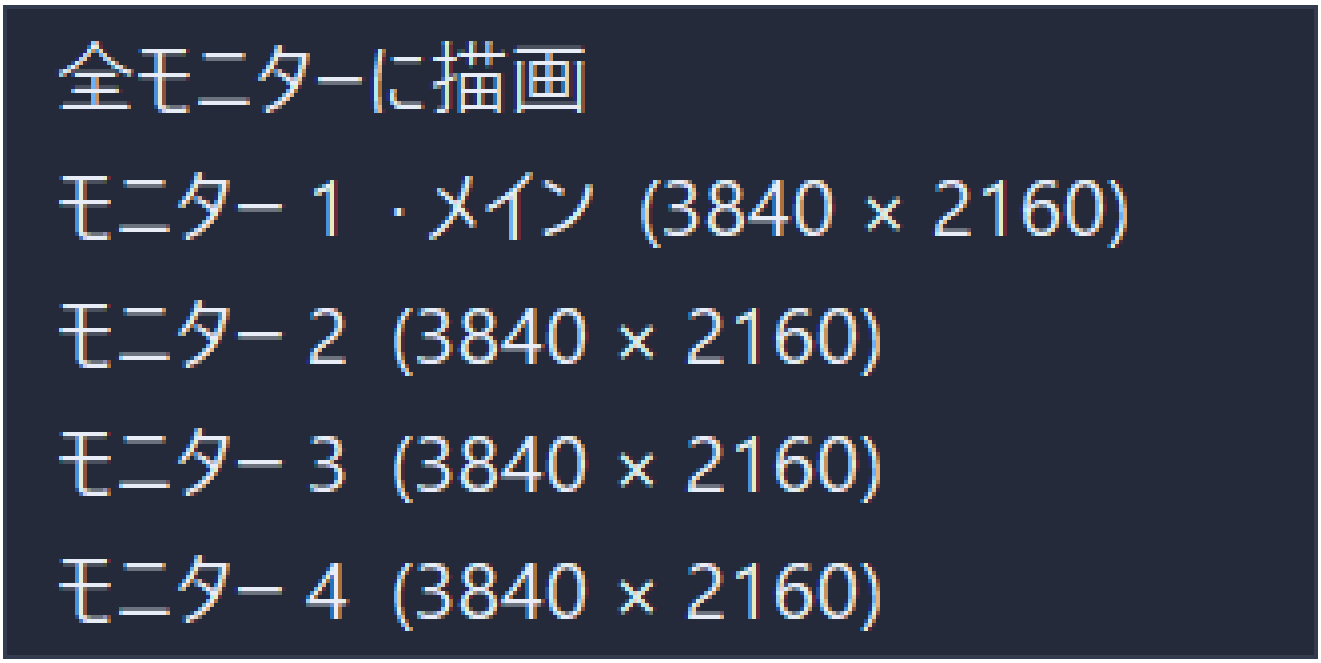
3. 呼び出す

プリセット一覧から名前を選び、適用を押します。既存図形を変えるときは先に対象を選択します。

操作のポイント

登録プリセットは.dinkの中に保存し、新規・読み込みプロジェクトでも共通設定から呼び出せます。同名は重複取り込みしません。プリセット名の変更・削除専用画面は未実装です。更新・修復では共通設定を保持します。

通常PC操作とお絵描きを切り替える



DesktopInk 1.3.7 実画面の操作例

1. 画面に描く

編集画面を隠した状態で線や図形を選ぶと、静止画を背景にした描画画面が開きます。

2. PC操作へ戻る

ツールバーのマウスアイコンを押します。描画画面を隠し、通常のブラウザーやWindowsを操作できます。

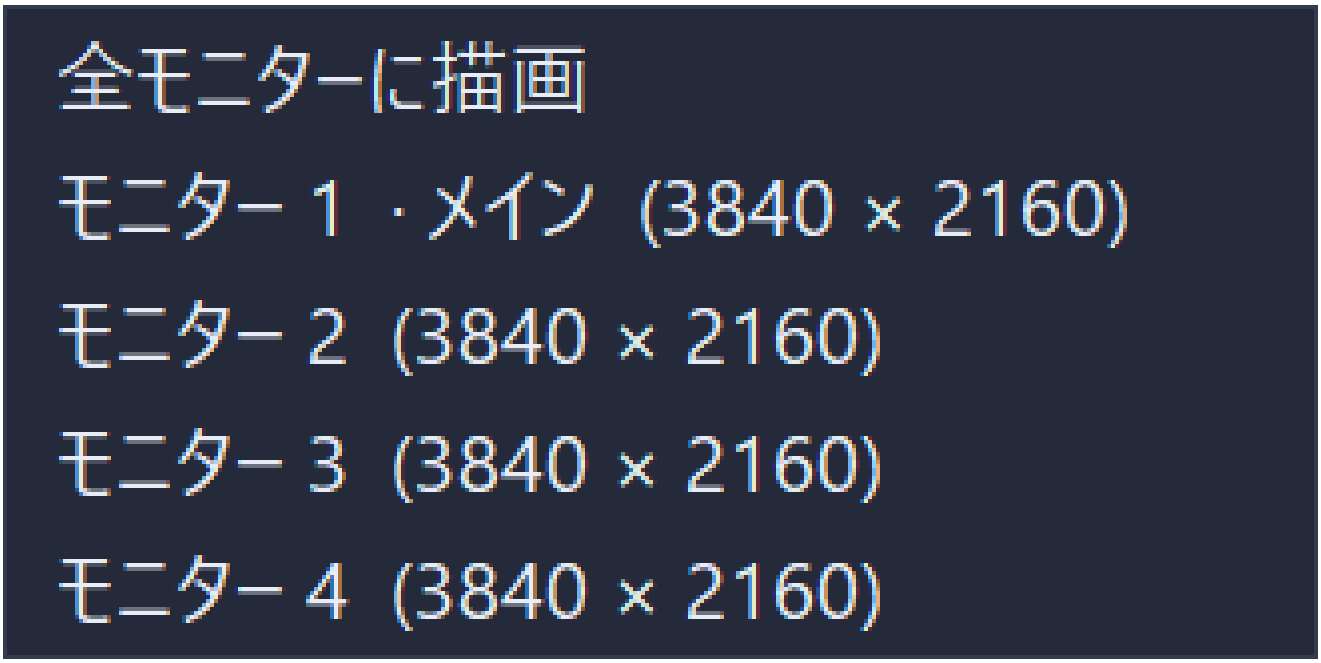
3. 描画へ戻る

同じマウスアイコンをもう一度押します。現在の画面を背景に取り直し、描いた図形を保持したまま戻ります。

操作のポイント

PC操作中は描画を隠します。戻ると背景は更新されますが、線・図形・文字の位置は変わりません。背後の内容の移動に合わせて図形が追従する機能はありません。

描画を終了して編集画面へ戻る



DesktopInk 1.3.7 実画面の操作例

1. モニターのメニューを開く

描画中にツールバーのモニターアイコンを押します。

2. 描画を終了

描画を終了して編集画面へを選びます。画面にかぶせた描画表示を閉じ、管理・編集画面に戻します。

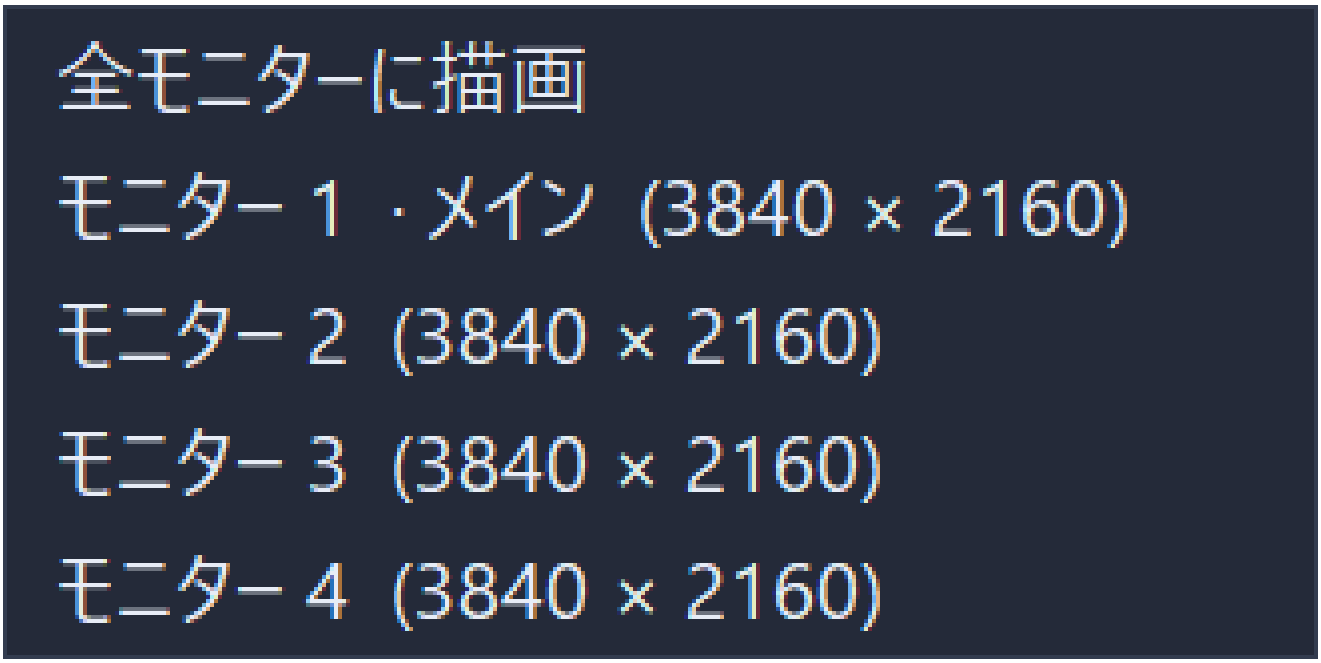
3. 必要なら管理画面を隠す

管理アイコンか×で隠せます。アプリを終える場合は… → 終了です。

操作のポイント

一時的なPC操作には前項のマウスボタンが便利です。現行版はライブ透過描画ではなく、画面の静止画像の上に描画します。

1台／共通／独立キャンバス



DesktopInk 1.3.7 実画面の操作例

1. 1台を対象にする

モニターアイコンを押し、モニター番号を選びます。初期対象はメインモニターです。

2. 共通で使う

モニターメニューの全モニターに描画を選ぶと、全体を1つのキャンバスで扱います。

3. 独立して使う

… → モニター独立で描画…を押し、表示された一覧の番号を入力します。

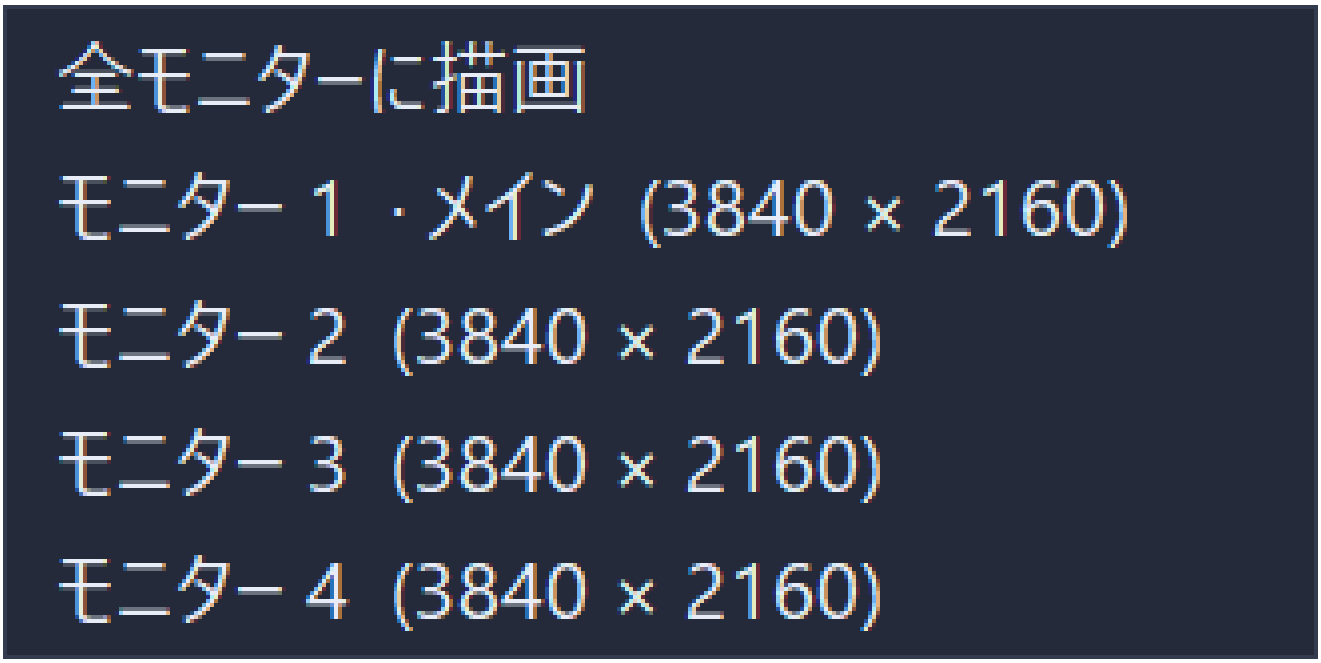
4. 別々に保存

独立キャンバスはそれぞれ開いて.dink保存します。アプリ終了後まで保持するには保存が必要です。

操作のポイント

番号入力は画面に表示された一覧に従ってください。全キャンバス一括保存は未実装。独立描画終了時は共通キャンバスに戻るため、独立分は終了前に保存してください。

解像度・拡大率が違う複数モニターで使う



DesktopInk 1.3.7 実画面の操作例

1. 対象を選択する

モニターアイコンから、表示される番号と解像度を見て対象を選びます。

2. 撮影位置を確認する

範囲撮影では目的の画面上をドラッグします。全モニター撮影では画面間の空白も画像範囲に含む場合があります。

3. 構成変更後は選び直す

解像度変更、画面の接続／切断後は描画を終了し、対象モニターを選び直してください。

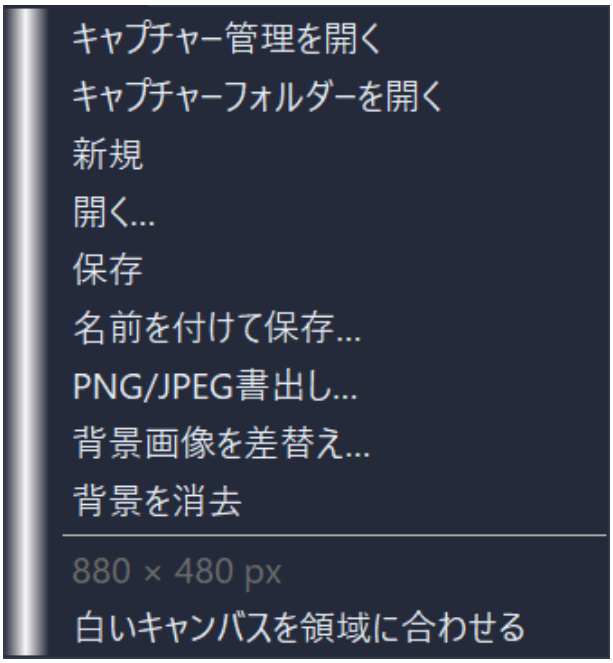
4. 操作バーが長すぎる場合

縦方向に収まらない場合は横向きに切り替わります。必要なら「-」で折りたたみます。

操作のポイント

画面の負の座標、異なる解像度の座標計算、現在接続された4画面での撮影・描画・切り替えを検証しています。解像度や拡大率を変更したときは描画を終了し、対象を選び直してください。すべての機器構成の動作保証ではありません。

背景画像を差し替える・消す



DesktopInk 1.3.7 実画面の操作例

1. 画像を選ぶ

編集画面のファイル → 背景画像を差替え…を押します。

2. 読み込む

PNG/JPEG/BMPの画像を選び、開くを押します。画像サイズにキャンバスが変わります。

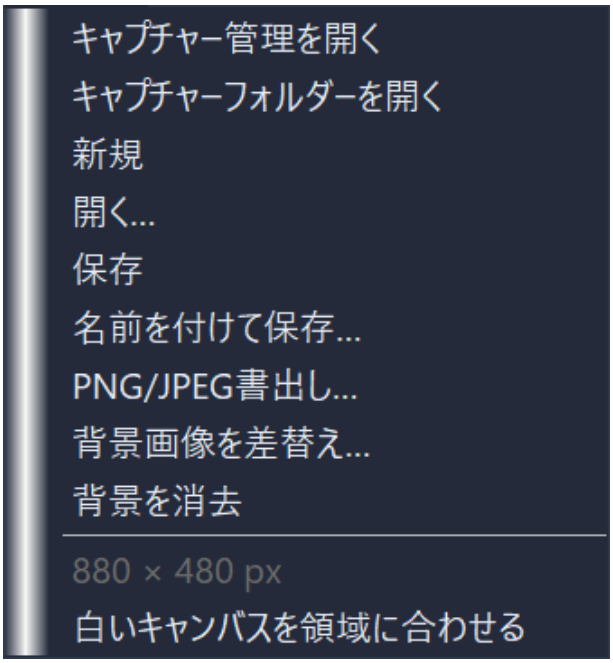
3. 背景だけ消す

ファイル → 背景を消去を選びます。図形・文字は残ります。

操作のポイント

画像を入れ替えても既存図形の座標は維持します。画像のレイヤー配置、背景の部分切抜き・リサイズは未実装。無料版ロック中の背景読込みは新規プロジェクトになります。

編集情報付きPNGひとつに保存する



DesktopInk 1.3.7 実画面の操作例

1. 保存を選ぶ

編集画面のファイル→保存、または操作バーの…→プロジェクトを保存を選びます。

2. PNGを選ぶ

初期形式は編集情報付きPNGです。保存場所と名前を指定します。旧形式で保管したい場合は.dinkを選べます。

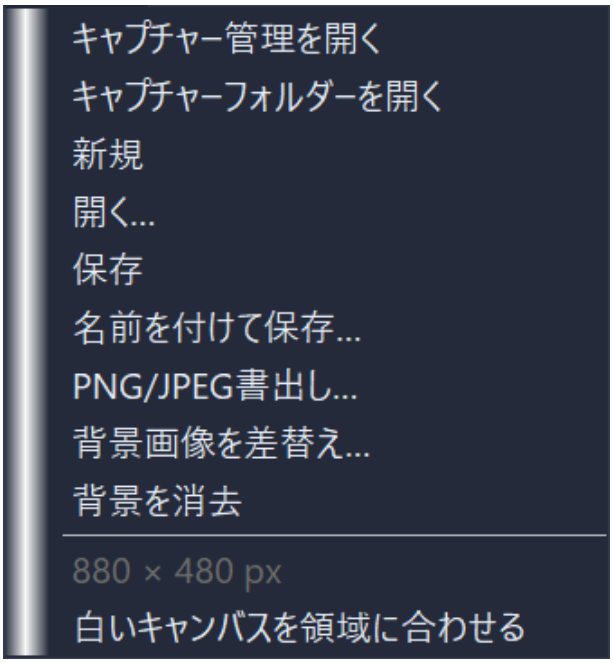
3. 保存する

背景の元画像と文字・線・図形・レイヤーをPNG内部に保存します。別の.dinkは作りません。普通の画像ビューアーでは描き込み済みの完成画像として表示します。

操作のポイント

一般向け無料版では保存後に編集ロックされます。完全版・受講生版は保存後も編集できます。PNGのコピーや名前変更でも編集情報は維持します。他のアプリやSNSで再保存すると情報が失われる場合があります。

PNG・旧.dinkを開き直す／上書き・別名保存



DesktopInk 1.3.7 実画面の操作例

1. 保存ファイルを開く

ファイル→開く、またはキャプチャー管理画面でPNGをダブルクリックします。以前の.dinkも開けます。

2. 図形を選んで編集

編集情報付きPNGでは、背景と描き込みを元の状態で読み込みます。文字や線を個別に選択できます。一般向け無料版の保存済みデータは閲覧専用です。

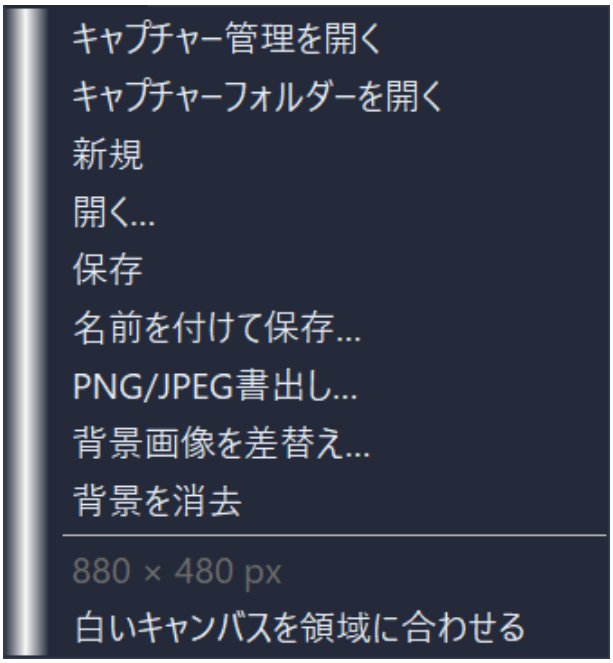
3. 保存する

保存で同じPNGを上書きします。元を残したい場合は名前を付けて保存を選びます。

操作のポイント

通常のPNG/JPEGには元の図形情報がありません。画像として開いて新しい描き込みを追加できます。すでに一枚に合成された古い画像から、元の文字や線を分離することはできません。

PNGで完成画像と編集情報をまとめて書き出す



DesktopInk 1.3.7 実画面の操作例

1. 書き出しを選ぶ

ファイル→PNG/JPEG書出し、または…→PNG / JPEG書出しを選びます。

2. PNGを選ぶ

ファイルの種類でPNGを選び、保存場所と名前を指定します。

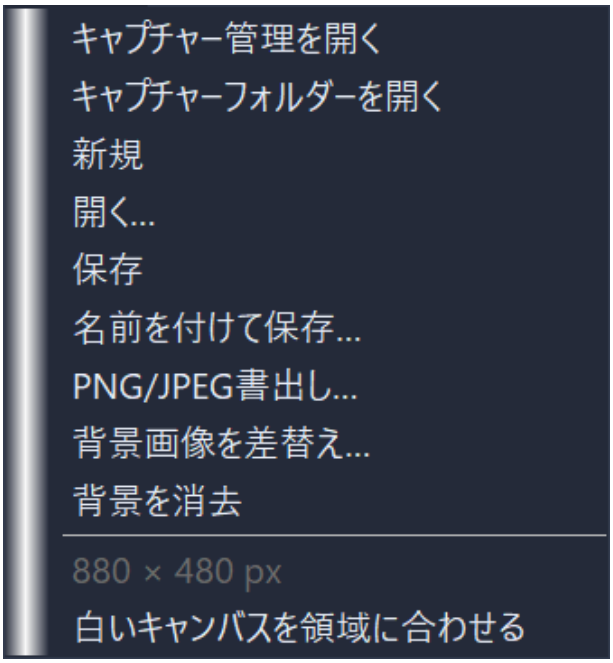
3. 保存結果を確認

完成画像と背景・描き込みの編集情報をPNGひとつに保存します。DesktopInkでは元の図形として、通常の画像ビューアーでは完成画像として開きます。

操作のポイント

PNG書き出し時の.dinkの併記は廃止しました。既存の.dinkは削除しません。JPEGは編集情報を保持できないため、従来どおり.dinkも別に保存します。

JPEGで保存①：形式を選ぶ



DesktopInk 1.3.7 実画面の操作例

1. 画像書出しを開く

… → PNG / JPEG 書出し…を押します。.dinkのプロジェクト保存とは別の操作です。

2. ファイルの種類を開く

保存画面のファイルの種類の欄を押し、候補を表示します。

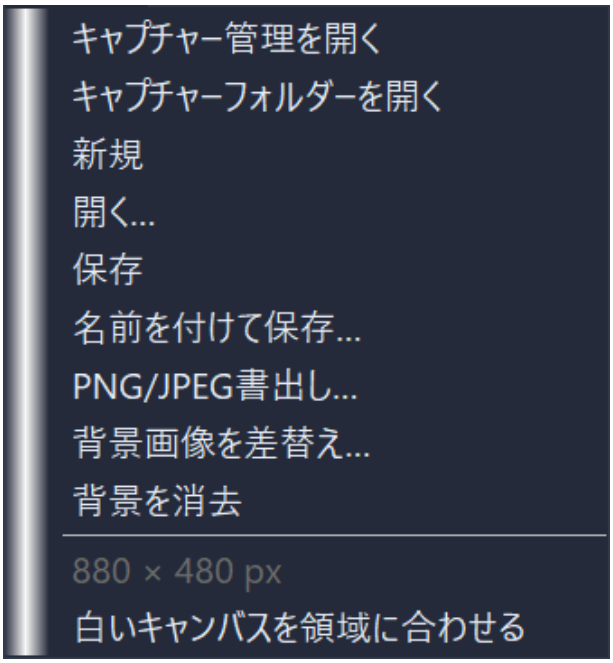
3. JPEGを選ぶ

JPEG（*.jpg）を選びます。ファイル名を変えるだけではなく、種類もJPEGにすることが大切です。

操作のポイント

JPEGは透明部分を白くして保存します。写真などの共有用に使えます。画像圧縮品質を指定する専用設定はありません。保存画面は説明図です。

JPEGで保存②：保存先と名前



DesktopInk 1.3.7 実画面の操作例

1. 保存先を確認

初期表示は、管理画面でチェックした次回保存先です。初回の既定はピクチャ内のDesktopInk¥フォルダー1です。保存ダイアログで別の場所も選べます。

2. 名前を入れる

例：説明画像.jpgとします。種類がJPEGになっていることも確認します。

3. 保存を押す

画像と、同じ場所の編集用.dinkを保存します。上書き確認が出たら対象を確認してください。

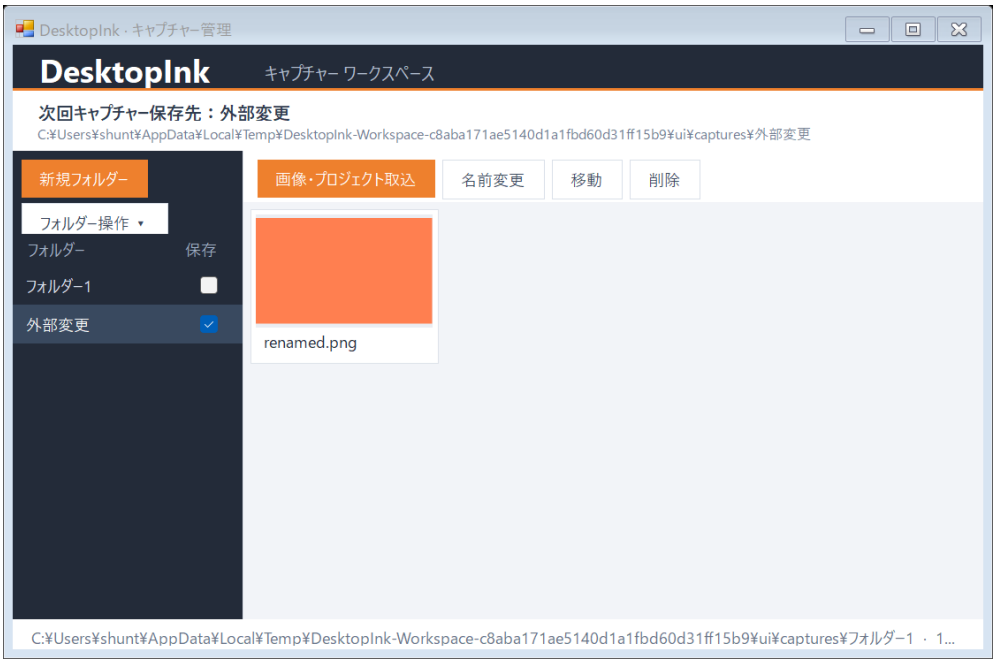
4. フォルダーで確認

説明画像.jpgと説明画像.dinkがあれば完了。次に直すときは.dinkを開きます。

操作のポイント

同名.dinkがある場合は既存プロジェクトを上書きせず、_edit_と日時等を付けて別名にします。無料版の編集ロックは書出し成功後です。

自動保存された元画像を呼び出す



DesktopInk 1.3.7 実画面の操作例

1. 通知領域アイコンをクリック

Windows右下のDesktopInkを左クリックします。隠れている場合はアイコンの一覧を開きます。

2. 表示するフォルダーを選ぶ

左のフォルダー名をクリックします。この操作では次回保存先は変わりません。

3. 元画像を確認

Capture_日時_識別番号.pngが撮影時の元画像です。後から追加した注釈は元画像には含まれません。

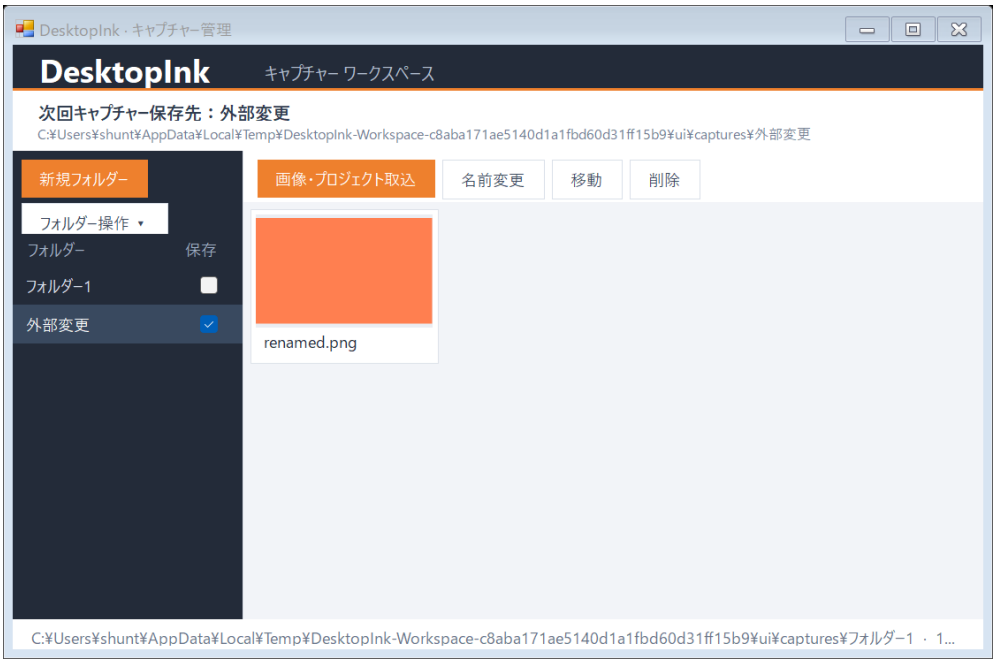
4. ダブルクリックで開く

画像カードをダブルクリックすると編集画面へ読み込みます。.dinkを開く場合は保存した描画データを読み込みます。

操作のポイント

撮影時の元画像には後から入れた注釈はありません。編集後の内容は手動保存か画像書出しを行ってください。通知領域の配置はWindows設定で変わります。

表示フォルダーと次回保存先を使い分ける



DesktopInk 1.3.7 実画面の操作例

1. 見たい場所を開く

左側のフォルダー名をクリックして画像一覧を切り替えます。

2. 保存先チェックを選ぶ

次の撮影先にするフォルダー行の右端「保存」をクリックします。チェックは1つだけです。

3. 上部の表示を確認する

次回キャプチャー保存先の名前とパスを見て、意図した場所になっていることを確認します。

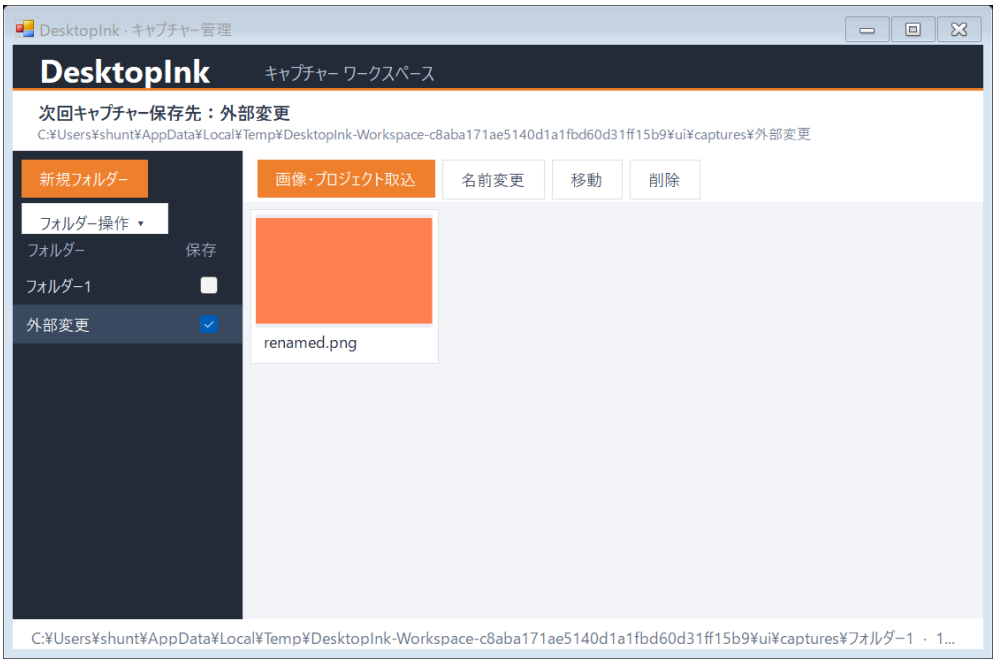
4. 次のキャプチャーを撮る

撮影した元PNGはチェックした実フォルダーへ保存されます。

操作のポイント

フォルダー名をクリックするだけでは保存先は変わりません。過去の画像を見ながら、次の撮影先を別フォルダーにしておけます。

保存用フォルダーを追加する



DesktopInk 1.3.7 実画面の操作例

1. 管理画面を開く

通知領域のDesktopInkアイコンを左クリックします。

2. 新規フォルダーを押す

左側の「新規フォルダー」を押します。

3. 名前を入力する

名前を入力してOKを押します。親保存先の直下へ実フォルダーを作成します。

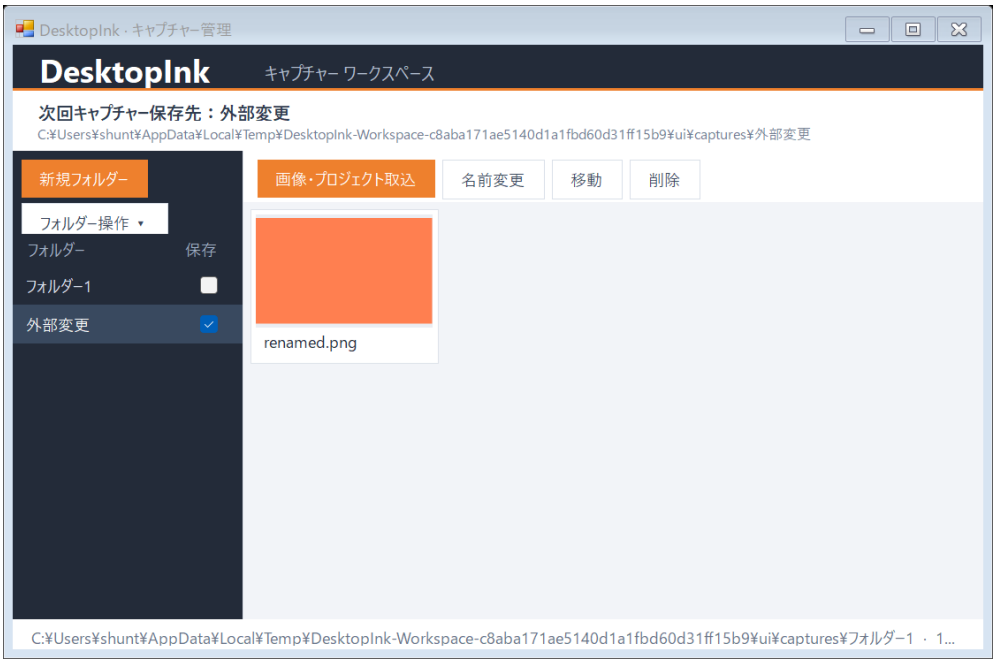
4. 必要なら保存先に指定

追加しただけでは次回保存先は変わりません。右端のチェックで指定します。

操作のポイント

初回はフォルダー1だけを作成します。同名やWindowsで使えない名前は作成できません。入れ子のフォルダーツリー表示は未対応です。

フォルダーを改名し、保存先を維持する



DesktopInk 1.3.7 実画面の操作例

1. 対象を選ぶ

一覧のフォルダー名をクリックします。

2. 名前変更を選ぶ

「フォルダー操作 → フォルダー名変更」を選びます。右クリックメニューからも操作できます。

3. 新しい名前を入力

名前を入力してOKを押します。実フォルダーの名前も変わります。

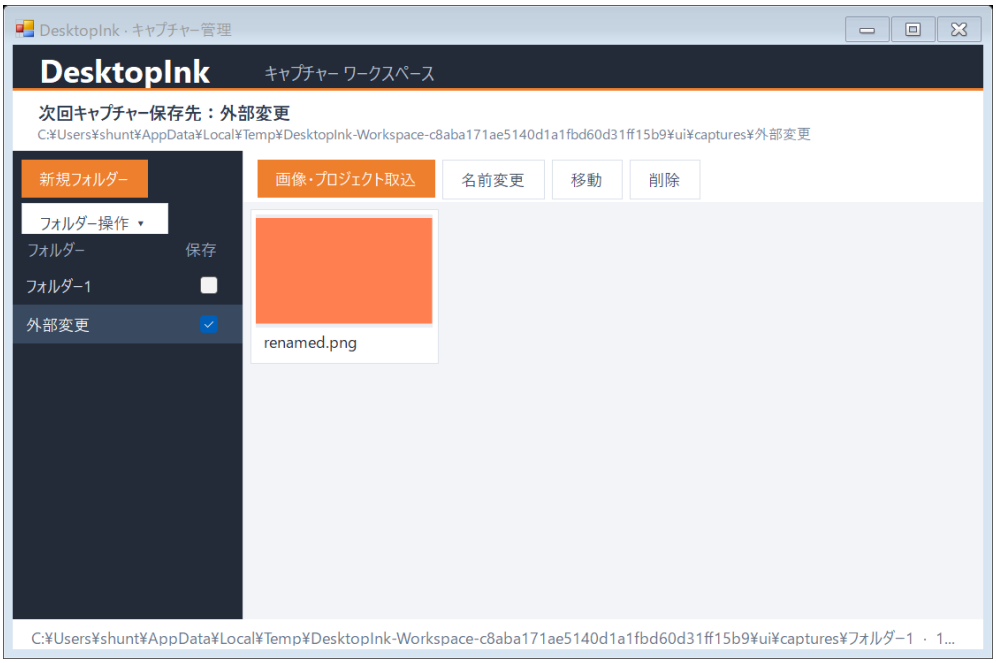
4. 保存先表示を確認

次回保存先だった場合も指定を維持し、上部表示が新しい名前へ変わります。

操作のポイント

エクスプローラーで改名した場合も追跡します。識別に使う隠しファイル .desktopink-folder-id は削除しないでください。

フォルダーを移動・削除する



DesktopInk 1.3.7 実画面の操作例

1. 移動するフォルダーを選ぶ

フォルダー名をクリックし「フォルダー操作 → フォルダー移動」を選びます。

2. 移動先の親を選ぶ

選んだ場所の中へフォルダーを移動します。管理対象の親保存先の外に移すと一覧から外れます。

3. 削除する場合

「フォルダー削除」を選び、確認画面で内容を確認します。確定すると中身ごとごみ箱へ移します。

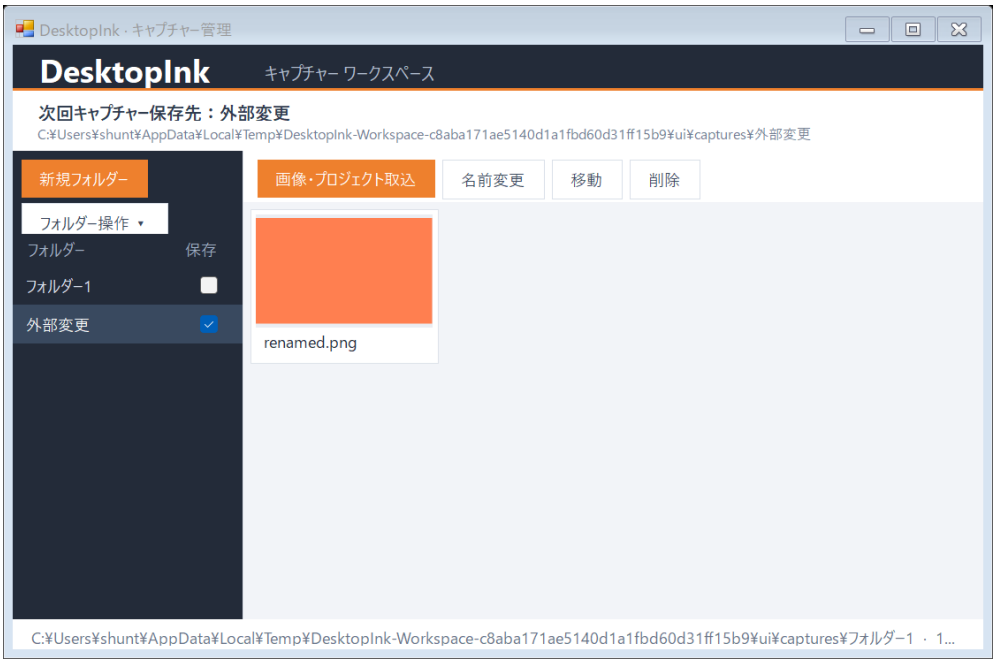
4. 保存先を選び直す

現在の保存先を削除／対象外へ移動した場合は未指定となります。別の行の保存チェックを選んでください。

操作のポイント

削除をキャンセルすると残ります。対象がなくなっても、アプリは勝手に同じ保存先を作り直しません。

画像・プロジェクトを取り込み・改名・移動する



DesktopInk 1.3.7 実画面の操作例

1. 保存するフォルダーを表示

左のフォルダー名をクリックします。

2. 取り込む

「画像・プロジェクト取込」からPNG/JPEG/BMP/.dinkを選びます。元ファイルを残してコピーします。

3. 名前を変える

ファイルを選択し「名前変更」を押します。拡張子を保ったまま名前を変えます。

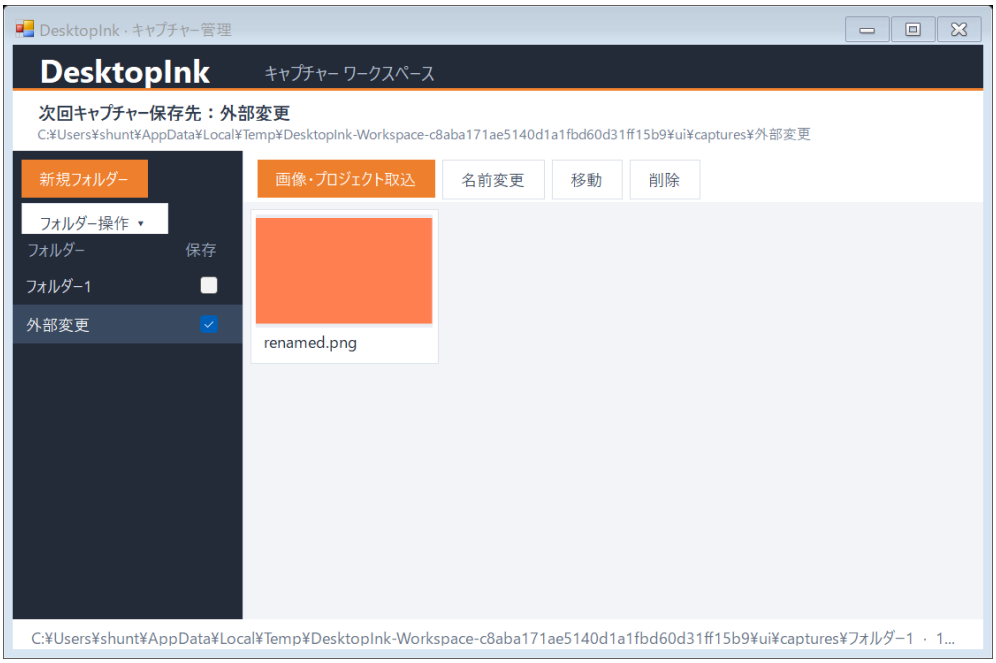
4. 移動・削除する

ファイルを選択して上部の「移動」または「削除」を押します。削除は確認後ごみ箱へ移します。

操作のポイント

同名の画像と.dinkは独立したファイルです。片方を改名・移動・削除しても、もう片方は自動連動しません。編集中の.dinkは保存後に整理するか、新しい場所から開き直してください。

エクスプローラー側で整理した変更を反映する



DesktopInk 1.3.7 実画面の操作例

1. 実フォルダーを開く

「フォルダー操作 → 表示中をエクスプローラーで開く」を選びます。

2. Windows側で整理する

画像の作成・追加・改名・移動・削除や、フォルダー名の変更を行います。

3. 管理画面を確認する

約1.2秒ごとの確認で実フォルダーの内容を一覧へ反映します。

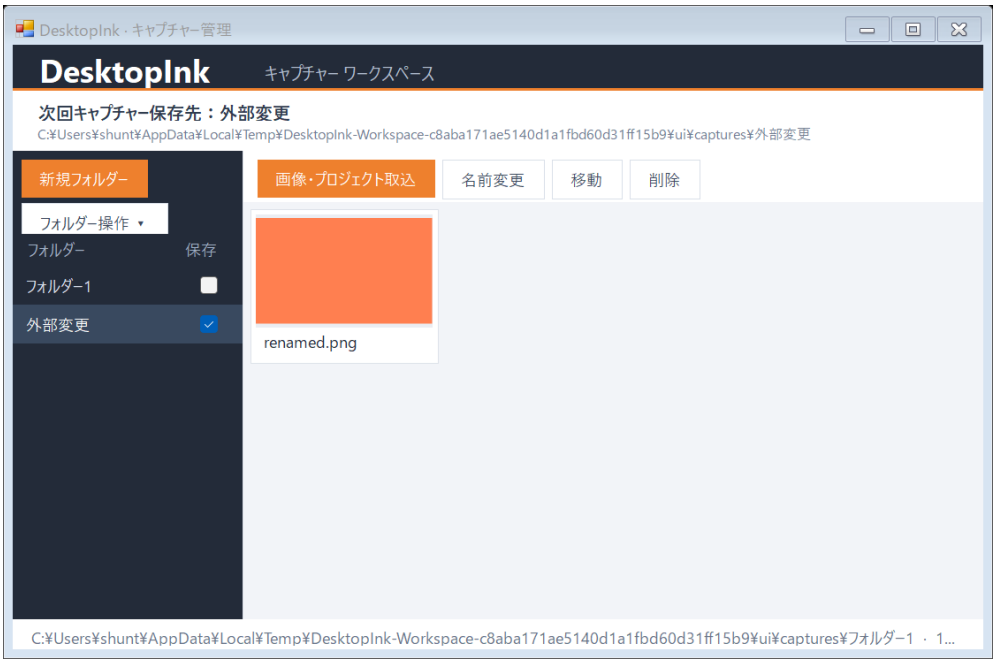
4. 親フォルダーを変えた場合

親保存先そのものを外部で改名した場合は「親保存先を変更」から新しい場所を指定し直します。

操作のポイント

管理画面は親保存先の直下を表示します。親の外へ移した画像やフォルダーは一覧から外れます。書き込み権限やドライブ接続も確認してください。

親保存先を後から変更する



DesktopInk 1.3.7 実画面の操作例

1. 操作メニューを開く

キャプチャー管理画面の「フォルダー操作」を開きます。

2. 親保存先を変更する

「親保存先を変更」を押して新しい親フォルダーを選び、確認して進めます。

3. 新しい一覧と保存先を確認

新しい親の直下のフォルダーを一覧表示します。空ならフォルダー1を作成します。

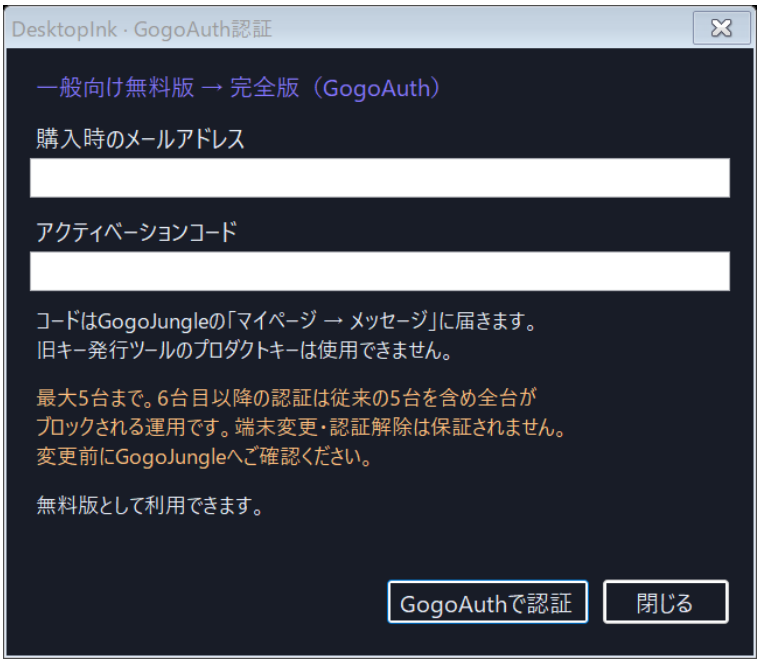
4. 必要な保存先にチェック

次の撮影先にしたい行をチェックし、上部パスを確認します。

操作のポイント

古い画像は元の場所に残し、自動移動しません。新しい場所で過去画像も見たい場合は、エクスプローラーなどで必要なデータを移動してください。

無料版とフル版で変わること



DesktopInk 1.3.7 実画面の操作例

1. 無料版で作成

新規プロジェクトでは図形・文字を編集できます。元キャプチャーの自動保存でも編集を続けられます。

2. 保存・書出し後

無料版ではそのプロジェクトが閲覧専用になります。閲覧・再保存・書出し・新規作成は利用できます。

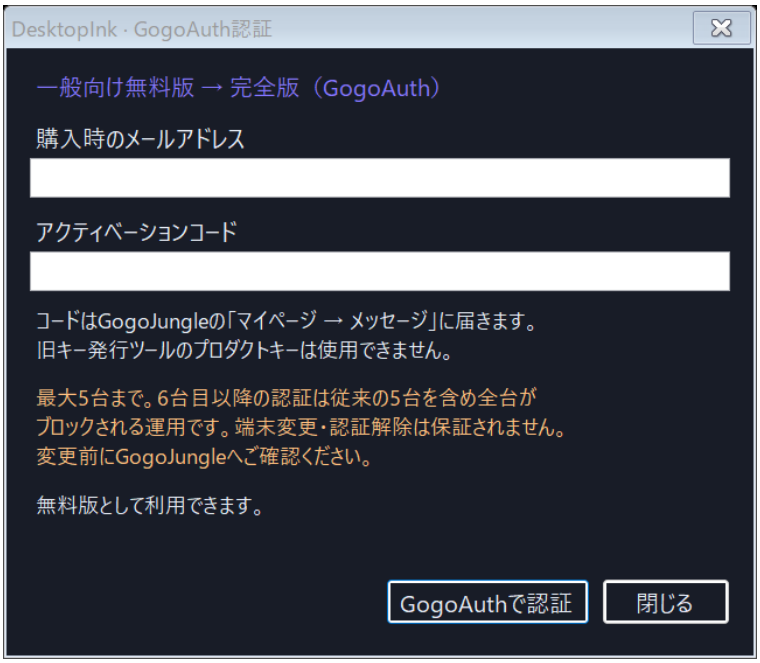
3. フル版に変更

認証すると現在の保存済みプロジェクトも、開き直した.dinkも再編集できます。

操作のポイント

編集情報付きPNGまたは旧.dinkから図形を再編集できます。普通のPNG/JPEGだけでは図形を復元できません。

GogoAuthで完全版に切り替える



DesktopInk 1.3.7 実画面の操作例

1. 有料プランを購入

GogoJungleのDesktopInk完全版の商品を購入します。一般向け無料版と同じアプリを使用します。

2. 購入情報を確認

購入時のメールアドレスと、GogoJungleのマイページ→メッセージに届くアクティベーションコードを用意します。

3. 認証画面を開く

操作バーの「… → フル版にアップグレード…」または編集画面の「ライセンス → GogoAuth認証…」を選びます。

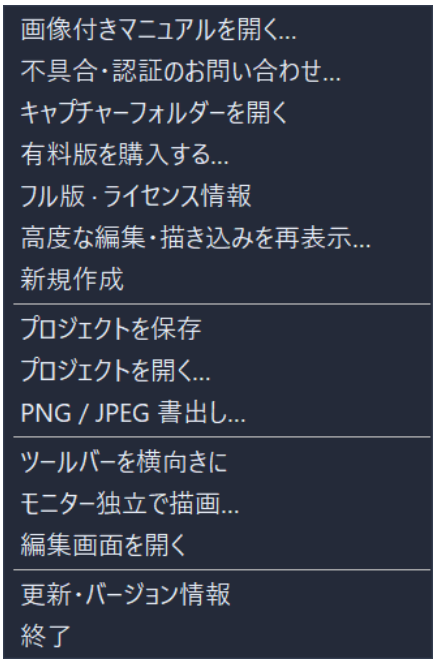
4. 入力して認証する

購入時メールとコードを貼り付け「GogoAuthで認証」を押します。成功すると保存済みプロジェクトも再編集できます。

操作のポイント

インターネット接続が必要です。従来の独自キー発行ツールは使用しません。旧DI1キーをGogoAuthコードに自動変換する機能はありません。旧版認証済み利用者の移行は販売元へお問い合わせください。

新規作成・終了・バージョン更新



DesktopInk 1.3.7 実画面の操作例

1. 新規作成する

… → 新規作成を選ぶと、新しいタブでキャンバスを開きます。元のタブは残ります。

2. 完全に終了する

… → 終了、または通知領域の右クリック → 終了を使います。編集画面の×は非表示にする操作です。

3. 最新版を起動する

新しい一般向けSetup.exeを実行します。旧バージョンを検出するとアップデートが標準表示されます。事前アンインストールは不要です。

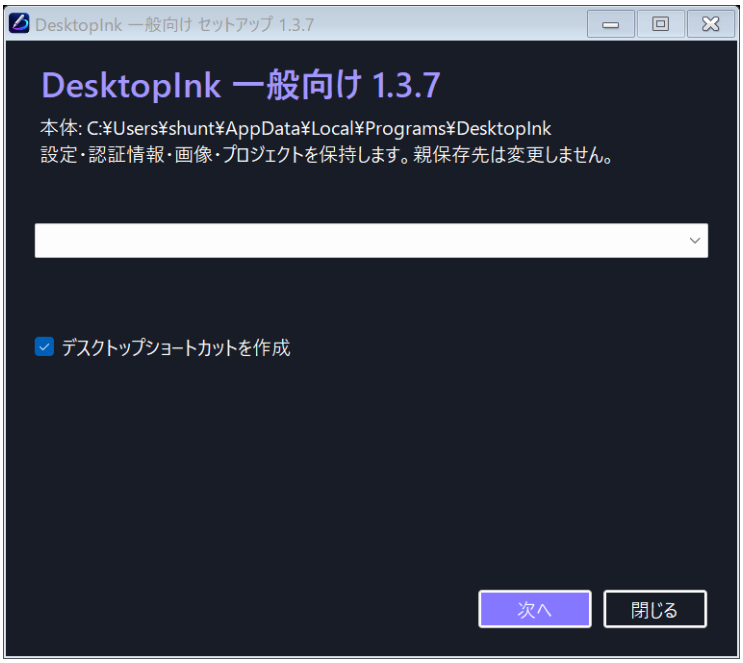
4. 確認して更新する

次へで内容を確認してアップデートします。設定・プリセット・GogoAuth情報・画像・.dinkは保持し、親保存先も変更しません。

操作のポイント

一般向けと受講生版は別の本体・設定フォルダーとショートカットです。同じ版のインストーラーを使用します。旧フォルダーから直接使う配布版は残るので、更新後は新しいショートカットから起動してください。

アンインストールと保持・削除の選択



DesktopInk 1.3.7 実画面の操作例

1. アプリを終了

未保存内容を保存し「… → 終了」で閉じます。Setup.exeでアンインストールを選びます。Windowsの設定→アプリからも開けます。

2. 削除したい種類だけ選ぶ

設定・描画プリセットと画像・編集プロジェクトは個別選択です。初期値は両方とも保持です。認証情報も初期値は保持です。

3. 次へで一覧を読む

本体、設定、削除対象ファイルと保存場所を確認します。画像は保存記録と内容の一致を確認できるものだけを一覧表示します。

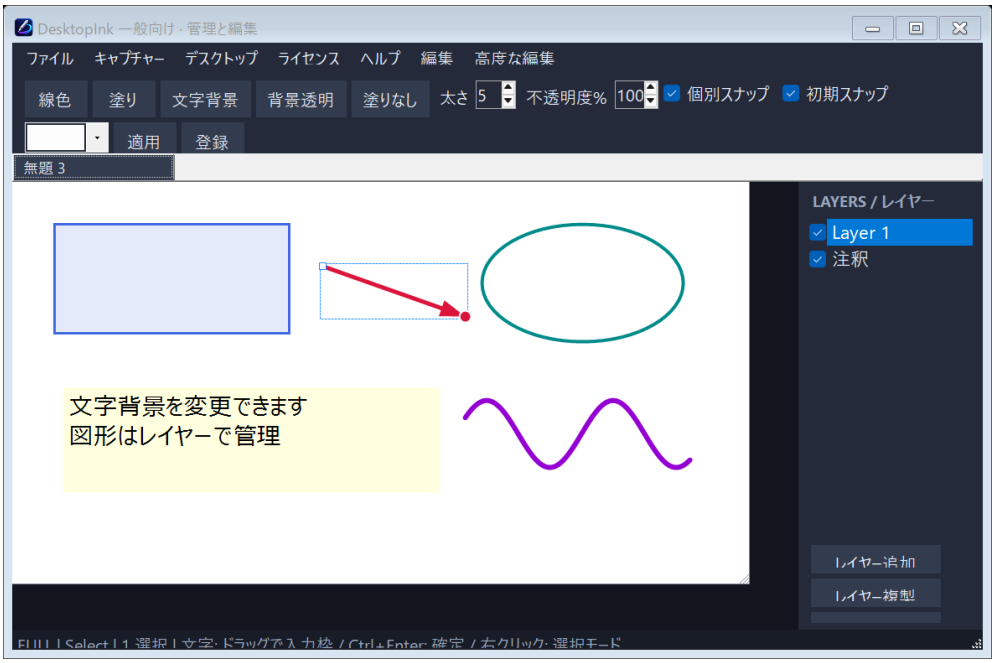
4. 最終確認して削除

削除を実行し、最終確認に同意した場合だけ削除します。不要なチェックがあれば戻って外してください。

操作のポイント

削除データは元に戻せません。記録のない旧ファイル、エクスプローラーで内容が変更されたファイル、無関係なファイルは残します。フォルダーや識別ファイルも残る場合があります。削除前にバックアップしてください。

よくあるつまずきと未実装機能



DesktopInk 1.3.7 実画面の操作例

1. 描けない

無料版で保存・書出ししてロックされていないか確認。新規作成かフル版認証を使います。

2. 見えない

レイヤーの表示、線色、不透明度を確認。文字が切れるときは入力枠を広げます。

3. 元のPCを操作したい

マウスアイコンで通常操作へ切替。戻すと背景を更新し、図形は保持します。

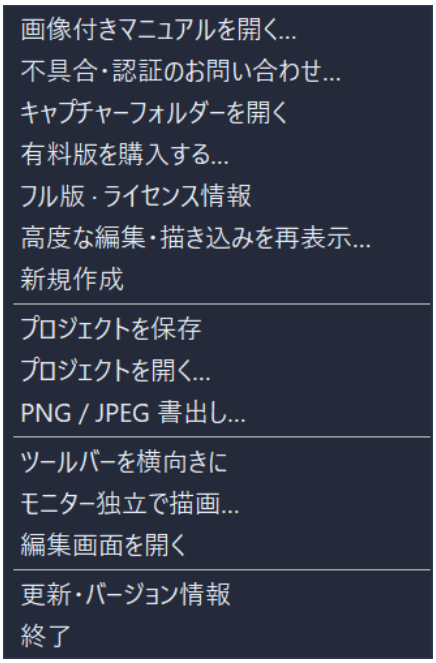
4. 画像だけから再編集したい

元の図形の再編集には.dinkが必要です。JPEG/PNGだけでは元の文字を復元できません。

操作のポイント

未実装：Undo/Redo、プロジェクト自動保存・復旧、スクロール・遅延撮影、画像レイヤー、ズーム、回転、図形間スナップ、全キャンバス一括保存。フル版でも追加されません。

不具合・認証の問題を連絡する



DesktopInk 1.3.7 実画面の操作例

1. 問題を記録

発生する操作、WindowsとDesktopInkのバージョン、エラー全文を記録します。可能なら個人情報を隠した画面画像も用意します。

2. 問い合わせ先を開く

… → 不具合・認証のお問い合わせ…からGogoJungleの販売者ページを開きます。編集画面のヘルプからも開けます。

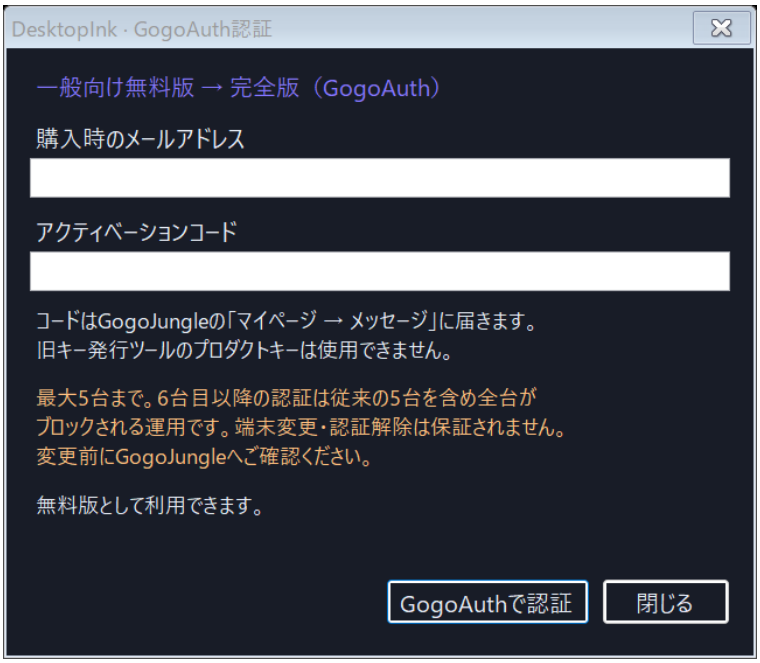
3. 利用可能な問い合わせ手段を選ぶ

販売者ページや購入商品の問い合わせ機能で、購入商品と症状を説明します。購入や認証台数の問題はGogoJungle側にも確認してください。

操作のポイント

パスワードやアクティベーションコード全文を公開欄に書かないでください。アプリ内の操作説明書は同梱PDFを開きます。PDFが不足するときはSetup.exeで修復してください。

最大5台・端末変更・認証解除の注意



DesktopInk 1.3.7 実画面の操作例

1. 台数を管理

一般向けの有料利用は1購入者につき最大5台です。利用するPCを事前に確認してください。

2. 6台目を認証しない

現時点の運用では6台目以降の認証で、従来の5台を含む全台がブロックされます。アプリが独自に5台の枠を管理する方式ではありません。

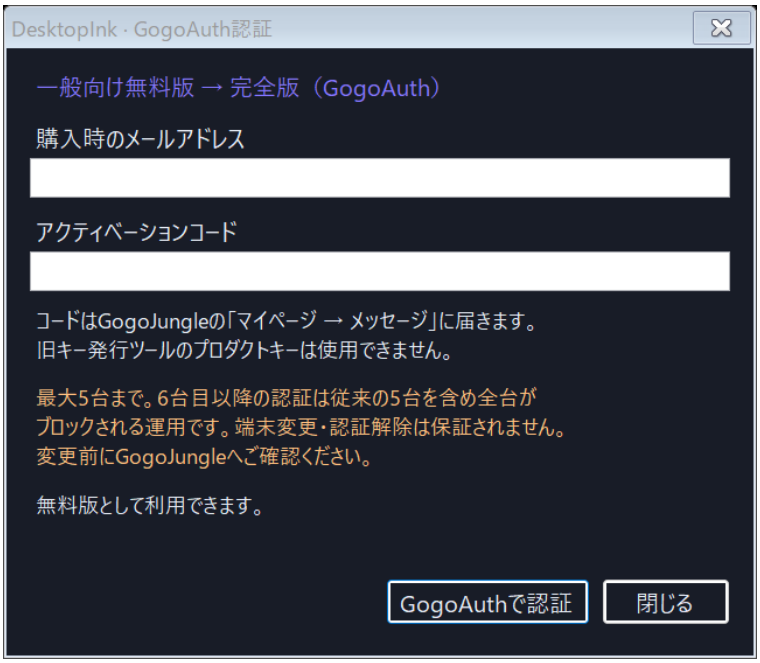
3. 買い替え前に確認

古いPCの認証解除と新しいPCへの変更手順は未確定です。変更前にGogoJungleへ確認してください。

操作のポイント

アンインストールやローカル認証ファイル削除は、サーバー上の端末解除ではありません。認証解除・台数枠の回復は保証されません。

認証できない・ネット接続がないとき



DesktopInk 1.3.7 実画面の操作例

1. 接続と入力を確認

インターネット接続と購入時メール、コードを確認します。前後の空白や別商品のコードに注意します。

2. 期限内の認証を使う

正常に認証した署名付き情報がPCに残り、有効期限内なら通信できない間も利用できます。通常トークンの期限を超えると無料版の制限に戻ります。

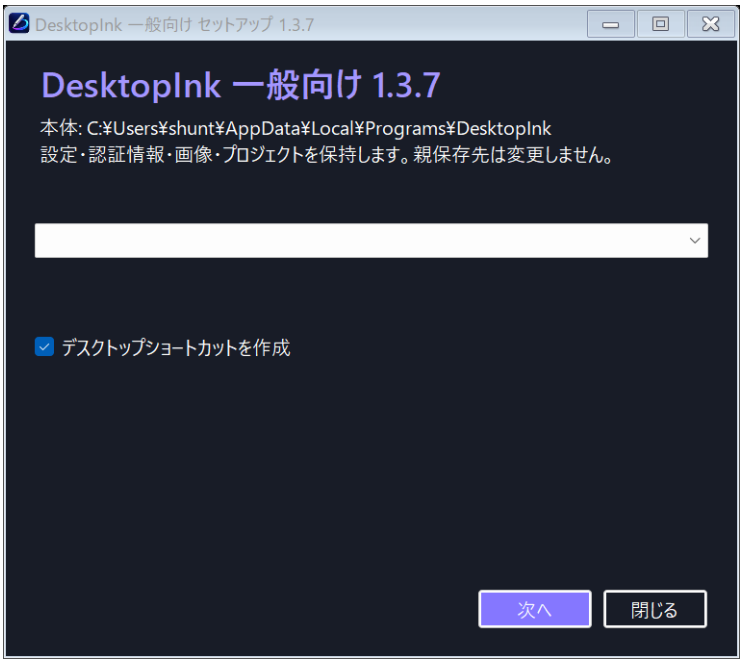
3. 編集中の内容を守る

認証エラーだけで描画データは削除しません。必要な内容を保存し、接続回復後に認証し直します。

操作のポイント

有料権利とネット認証の期限は別です。認証済みPCでも定期的に接続を確認します。無期限のオフライン使用を保証する仕様ではありません。

同じバージョンを修復・再インストールする



DesktopInk 1.3.7 実画面の操作例

1. 内容を保存して終了

編集中の.dinkや画像を保存し、⋯ → 終了を押します。

2. 同じSetup.exeを実行

同じ版・同じバージョンを検出すると修復・再インストールが表示されます。

3. 修復する

次へで確認し実行します。不足・破損した本体と同梱説明書などを入れ直します。

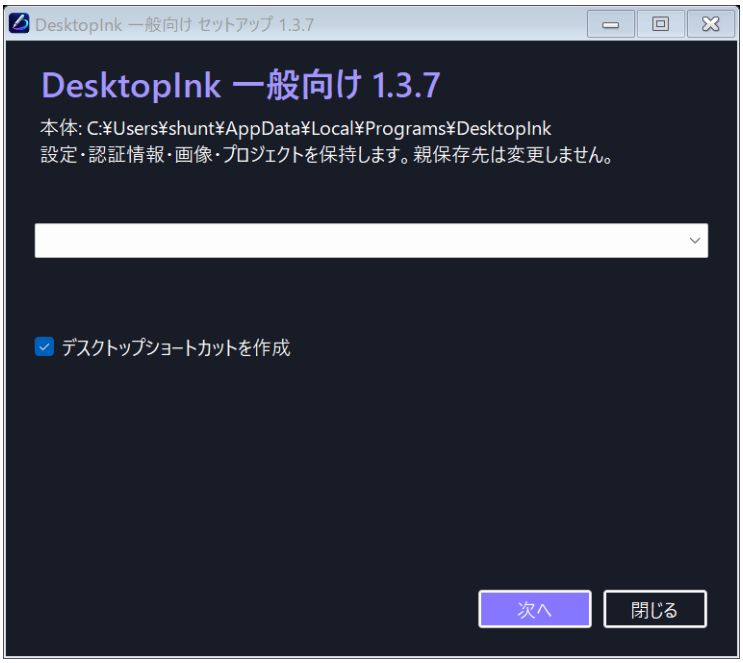
4. 起動して確認

スタートメニューから起動します。更新と同じく、設定、認証、保存先、画像・.dinkは保持します。

操作のポイント

旧版のインストーラーで新しい版を上書きすることはできません。修復は未保存の内容や削除済み画像を復元する機能ではありません。

更新に失敗した場合の復旧



DesktopInk 1.3.7 実画面の操作例

1. エラーを記録

エラー表示を記録します。アプリが起動中なら終了し、保存先の空き容量とアクセス権を確認します。

2. 戻された状態を確認

本体の置き換えに失敗した場合、処理前の本体・設定・ショートカット・登録情報へ戻す処理を行います。

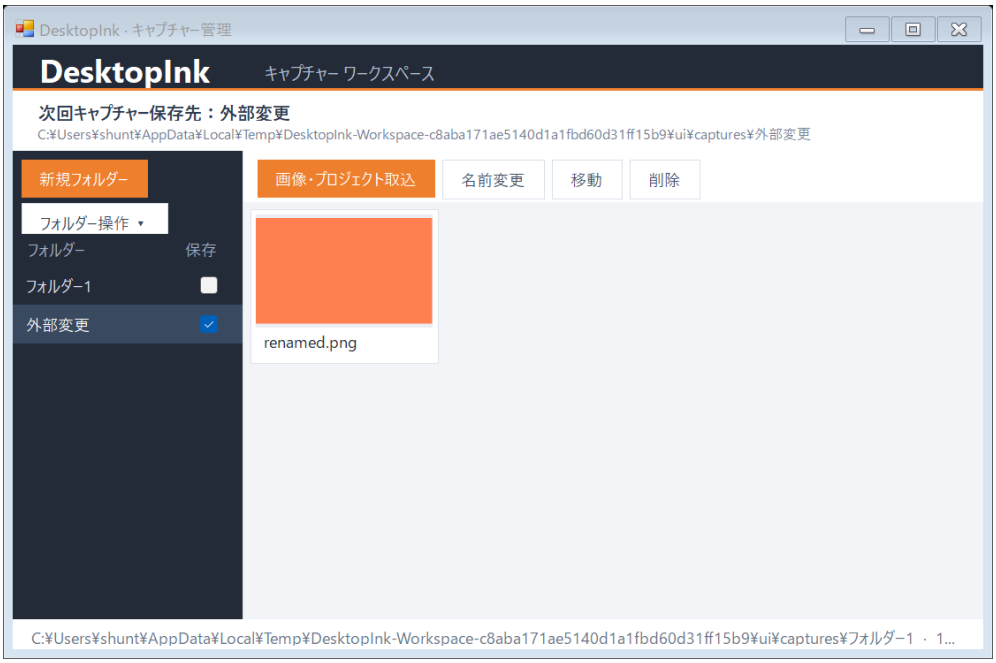
3. 修復・更新をやり直す

同じ版の最新版Setup.exeを再実行します。手動で撮影フォルダーを削除しないでください。

操作のポイント

電源断やディスク故障まで完全に復旧する保証ではありません。重要な画像と.dinkは、更新前に別ドライブなどへバックアップしてください。

保存場所とバックアップ



DesktopInk 1.3.7 実画面の操作例

1. データをコピー

管理画面で親保存先を確認し、実フォルダー全体を別の場所へコピーします。画像だけでなく.dinkも一緒に保管します。

2. 設定をコピー

アプリを終了して%LOCALAPPDATA%¥DesktopInkのworkspace.xml、preferences.xml、presets.xml、managed-files.xmlをコピーします。

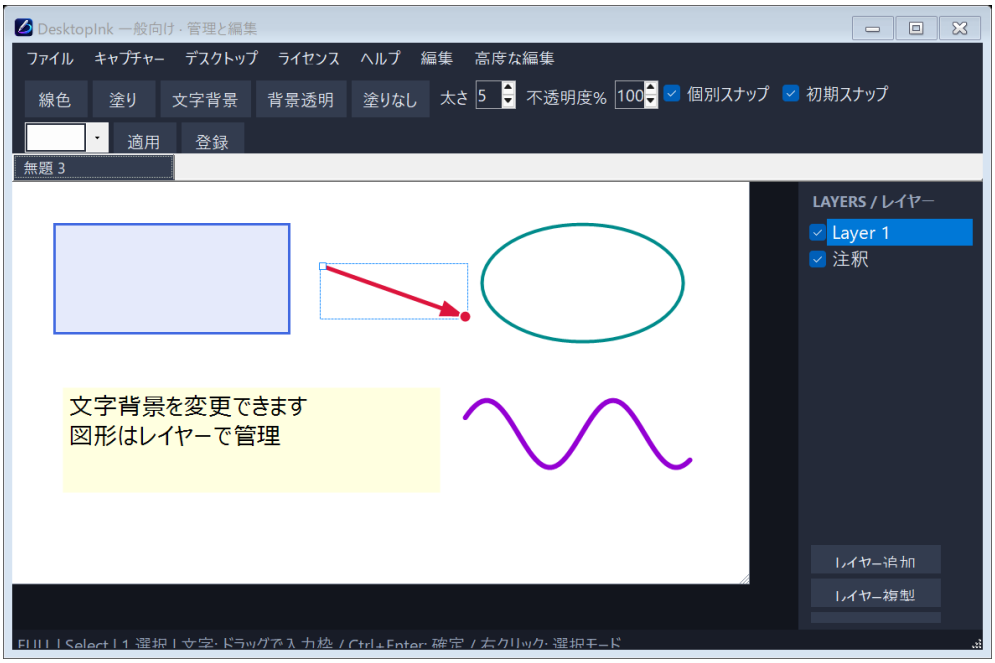
3. 認証を区別

一般向けの認証情報は%APPDATA%¥GogoAuth¥88711¥license.jsonです。同じPCでの更新・再インストールでは保持します。別PCにコピーしても認証の代わりにはなりません。

操作のポイント

フォルダーの.desktopink-folder-idも含めてバックアップします。復元時に同じ識別子のフォルダーが重複すると保存先が未指定になります。必要なら管理画面で選び直してください。

キーボード操作と設定



DesktopInk 1.3.7 実画面の操作例

1. 描画を確定

折れ線などはEnterまたはEscで現在の描画を確定します。右クリックでも確定して選択モードへ切り替わります。

2. 選択を操作

Ctrlを押しながら対象をクリックして複数選択します。キャンバスにフォーカスがあるときDeleteで選択した図形を削除します。

3. 文字入力を操作

入力中のCtrl+Enterは確定、Escはキャンセルです。通常のEnterは改行します。範囲撮影のEscはキャンセルです。

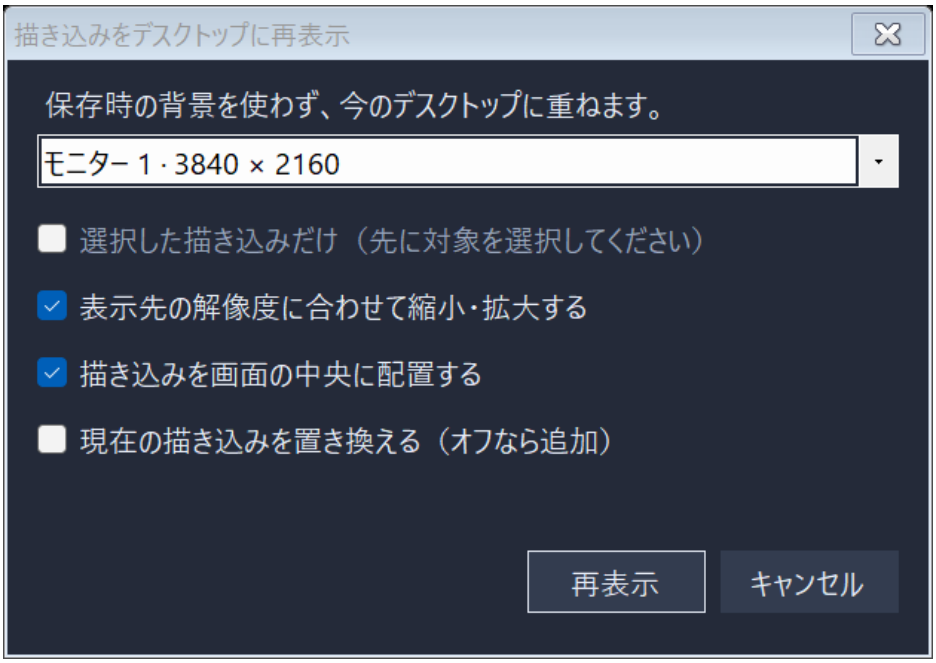
4. 設定を保持

通常終了時に現在の色・太さ・不透明度・初期スナップ・操作バーの向きと折りたたみ状態を保存します。

操作のポイント

全画面共通の撮影ホットキー、Ctrl+Z、ショートカット割り当て変更画面は未実装です。再表示の復帰にはCtrl＋Shift＋F12を使えます。文字入力欄の通常のコピー・貼り付けはWindows標準操作です。

高度な編集：描き込みを今のデスクトップへ再表示



DesktopInk 1.3.7 実画面の操作例

1. 保存ファイルを開く

編集情報付きPNGまたは.dinkを開きます。必要な線や文字だけを呼び出す場合は、選択ツールで対象を選びます。

2. 再表示を開く

編集画面の高度な編集→描き込みをデスクトップに再表示、または操作バーの…→高度な編集・描き込みを再表示を選びます。

3. 表示先を選ぶ

モニターの番号と解像度を確認します。選択した描き込みだけ、解像度に合わせる、中央に配置を必要に応じて切り替えます。

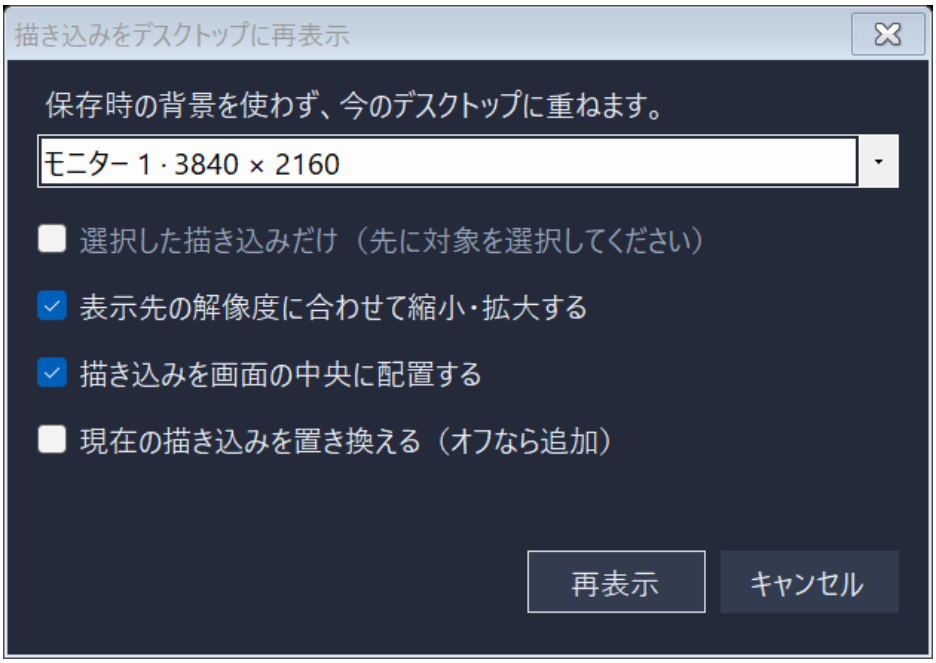
4. 再表示する

再表示を押します。保存時の背景を取り除き、今のデスクトップを取得して描き込みを重ねます。再表示した図形は選択状態になり、移動や編集ができます。

操作のポイント

再表示時は背景を重ねず、描き込みだけを透過表示します。保存・書き出し時に現在のデスクトップを背景として撮影します。元ファイルは別タブに保持されます。Escで表示を戻せます。文字入力中のEscは入力の取り消しです。

保存ファイルから追加する／現在の描き込みを置き換える



DesktopInk 1.3.7 実画面の操作例

1. 追加元を選ぶ

高度な編集→保存ファイルから描き込みを呼び出すを選び、編集情報付きPNGまたは.dinkを指定します。

2. 追加する場合

現在デスクトップに描画中なら、置き換えるのチェックを外して再表示します。既存の描き込みを残したまま追加します。編集画面だけの場合は、呼び出した描き込みで新しいデスクトップ描画を始めます。

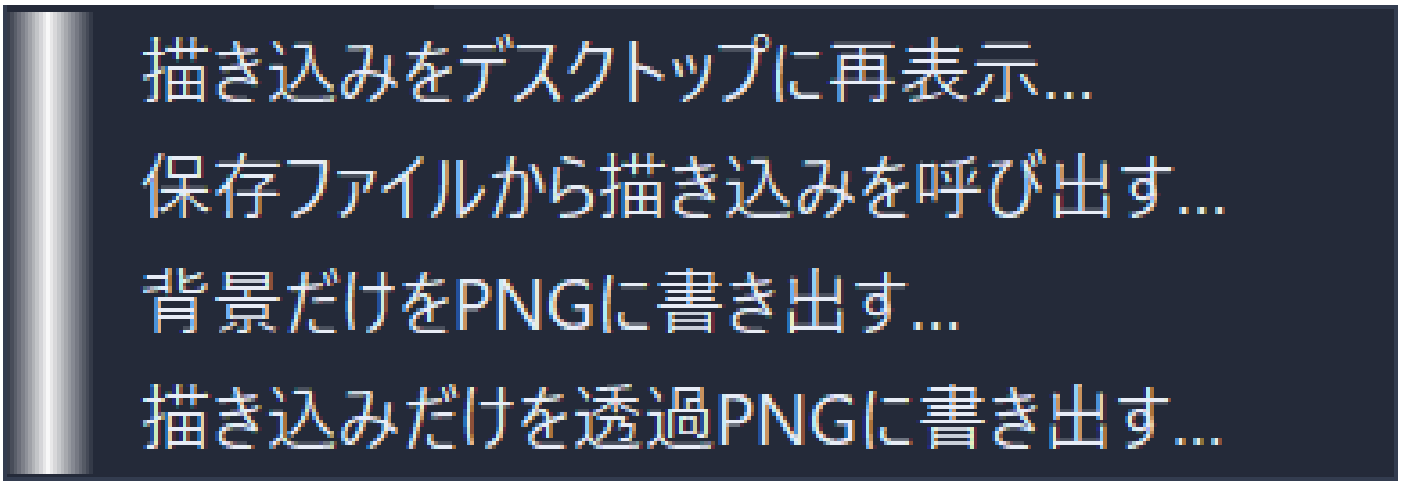
3. 置き換える場合

現在の描き込みを置き換えるにチェックします。再表示後の確認で同意した場合だけ置き換えます。必要な内容は先に保存してください。

操作のポイント

レイヤーの表示・非表示を維持します。背景は必ず現在のデスクトップへ更新します。別モニターへ追加する場合、既存の描き込みの座標は維持し、呼び出す側を選択した設定で配置します。

背景だけ／描き込みだけをPNGで取り出す



DesktopInk 1.3.7 実画面の操作例

1. 背景だけ保存

高度な編集→背景だけをPNGに書き出すを選びます。文字・線・図形を含まない元背景のPNGを保存します。

2. 描き込みだけ保存

高度な編集→描き込みだけを透過PNGに書き出すを選びます。表示中のレイヤーの描き込みだけを透明背景へ出力します。

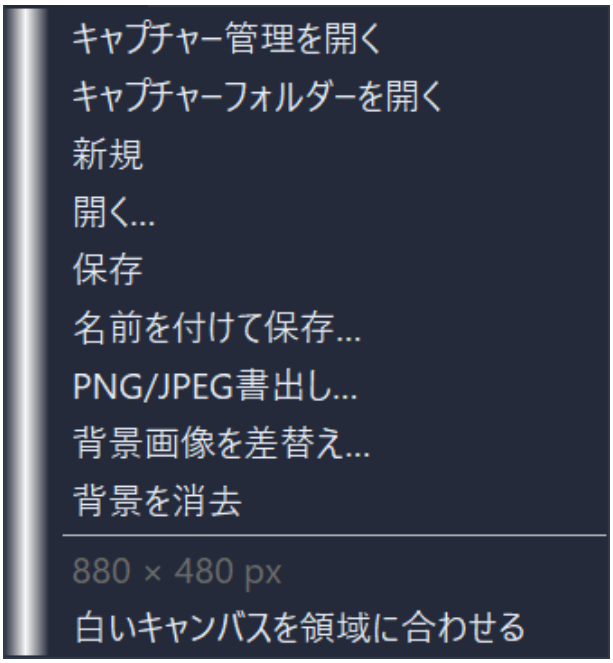
3. 再編集用を別に保管

この取り出し操作で作るものは普通のPNGです。元の図形として再利用するには編集情報付きPNGも保管してください。

操作のポイント

一般向け無料版はこの書き出しでも元プロジェクトが保存後ロックになります。

編集情報付きPNGの注意・破損時の対応



DesktopInk 1.3.7 実画面の操作例

1. 原本を保管

他の画像ソフトで加工する前に、DesktopInkで保存したPNG原本をコピーして保管します。SNS等へ送ると編集情報が削除される場合があります。

2. 編集情報がなくなった場合

通常の画像として開いて、新しい描き込みを追加できます。消えた編集情報や元の背景を合成済み画像から復元する機能はありません。

3. 破損と表示された場合

PNGの破損や完成画像と編集情報の不一致を検出した場合は読み込みを中止します。元ファイルやバックアップから開き直してください。

操作のポイント

編集情報付きPNGは1ファイル128MBまでです。編集情報はDesktopInk独自の形式であり、他のソフトが図形として編集できることを保証するものではありません。

複数画像を1本の操作バーで編集する



DesktopInk 1.3.7 実画面の操作例

1. 起動する

アイコンを再度クリックしても操作バーは増えず、起動済みの画面を前面に表示します。一般向けと受講生版を切り替えるときは、先に現在のアプリを終了します。

2. 画像を追加する

管理画面で別の画像をダブルクリックするか、ファイルを開きます。画像ごとにタブが追加されます。同じファイルは既存のタブへ移動します。

3. 切り替えて編集する

上部のタブをクリックして編集対象を切り替えます。それぞれの描き込みを保持したまま、共通の操作バーを使用します。

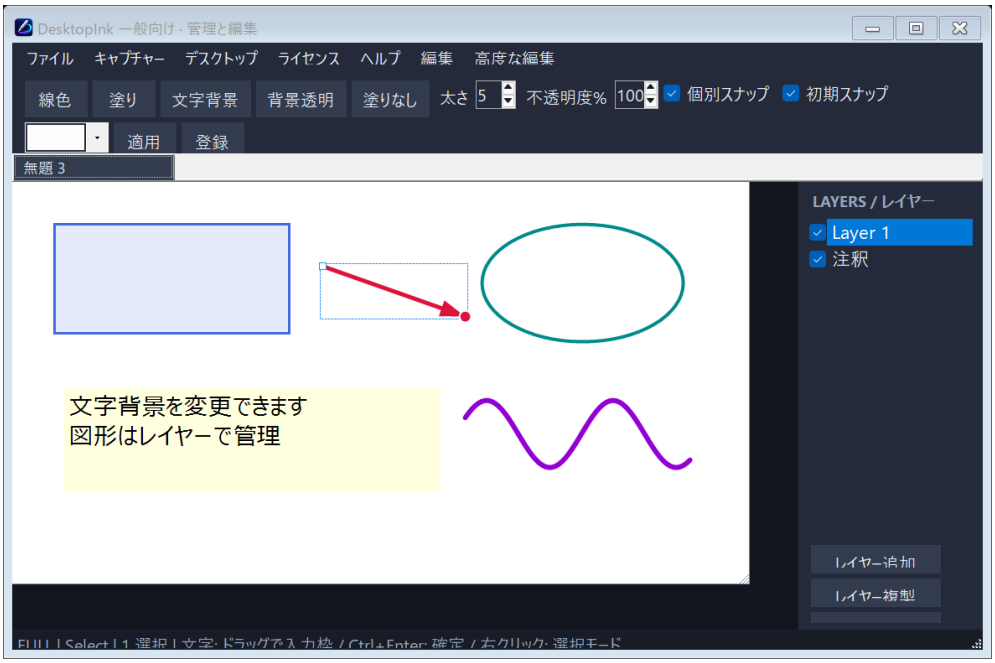
4. 保存して閉じる

画像ごとに保存してください。タブを右クリックすると閉じられます。未保存の変更がある場合は確認します。アプリ終了後に未保存タブは復元されません。

操作のポイント

無料版では保存済みデータの再編集制限が引き続き適用されます。

デスクトップ再表示と復帰の操作



DesktopInk 1.3.7 実画面の操作例

1. 描き込みだけ再表示する

高度な編集から再表示すると、現在のデスクトップ上に描き込みだけを表示します。再表示のためにデスクトップ画像を重ねて表示しません。

2. 操作を戻す

操作バーからデスクトップに戻るか、Escを押します。文字入力中は先に入力を終了します。Ctrl＋Shift＋F12も復帰用に使えます。

3. 保存する

保存・書き出し時だけ現在のデスクトップを背景として取り込みます。画面上では背景を重ねず、保存した編集情報付きPNGでは背景と描き込みを保持します。

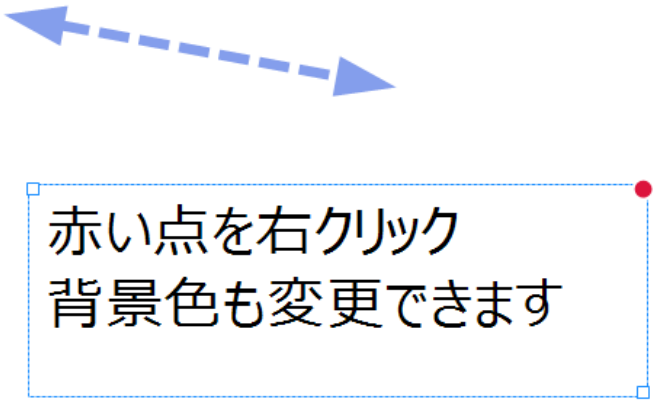
4. 新しい線を描く

再表示した図形の選択・移動は透過表示で操作できます。新たな描画ツールを選ぶと、通常のデスクトップ描画方式に切り替わります。

操作のポイント

ほかのアプリが復帰キーを使用している場合は登録できません。操作バーの復帰操作を利用してください。

赤い点からその場で設定を開く



DesktopInk 1.3.7 実画面の操作例

1. 編集したいものを選択

選択・移動ツールで線、文字、四角、丸などをクリックします。線や曲線は終点、文字や図形は枠の右上に赤い点が表示されます。

2. 赤い点を右クリック

赤い点の上で右クリックすると、その近くに操作パネルが開きます。線の上や何もない場所では、従来どおり選択モードへ切り替わります。

3. その場で調整

数値や色を変えると、選択中の1件にすぐ反映します。複数選択中に赤い点から開く場合も、その点の図形1件が対象です。

4. 閉じる

パネルの×、Esc、または外側のクリックで閉じます。閉じても変更内容は保持します。保存する前に結果を確認してください。

操作のポイント

赤い点も通常のPNG/JPEG出力には入りません。保存済みデータが無料版で閲覧専用の場合は表示・編集できません。

赤い点で線・矢印・線種を変更する



DesktopInk 1.3.7 実画面の操作例

1. 線を選ぶ

線を選択し、終点の赤い点を右クリックします。点は描いた順の終点なので、右側とは限りません。

2. 直線と矢印を切り替える

「線の種類」で直線または矢印を選びます。矢印では「終点（赤い点）へ」「始点へ」「両矢印」を選べます。線の位置と長さは保持します。

3. 見た目を調整

線の太さ、線種（実線・破線・点線・一点鎖線）、線の色、不透明度を変更します。曲線やフリーハンド等も太さ・色・線種・不透明度を変更できます。

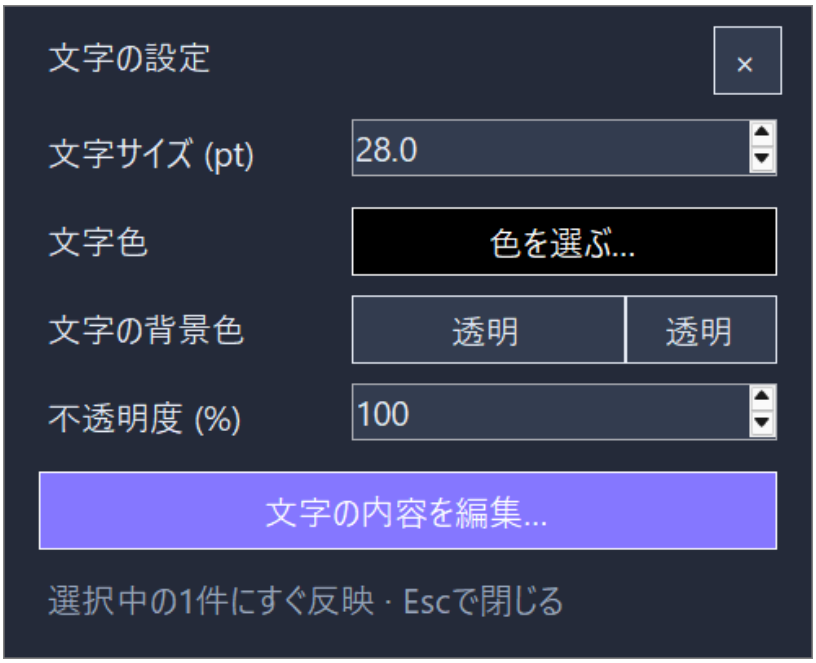
4. 長さ・向きを調整

パネルを閉じ、赤い点を左ドラッグすると従来どおり終点を動かせます。直線中央のオレンジの点は曲線への変更に使います。

操作のポイント

直線と矢印の切替は2点の線が対象です。折れ線やベジェ曲線を矢印にする機能はありません。フリーハンドは途中の点を表示しません。

赤い点で文字サイズ・背景・内容を変更する



DesktopInk 1.3.7 実画面の操作例

1. 文字枠の赤い点を右クリック

文字を選択し、枠の右上の赤い点を右クリックして「文字の設定」を開きます。

2. 文字サイズを変更

「文字サイズ（pt）」で6〜144ポイントを指定します。文字サイズを設定した後は、線の太さと独立して扱います。枠から文字がはみ出す場合は枠を広げます。

3. 色・背景・透明度を変更

文字色、文字の背景色、不透明度を変更できます。背景をなくすときは「透明」を押します。透明の色ボタンから色を選ぶこともできます。

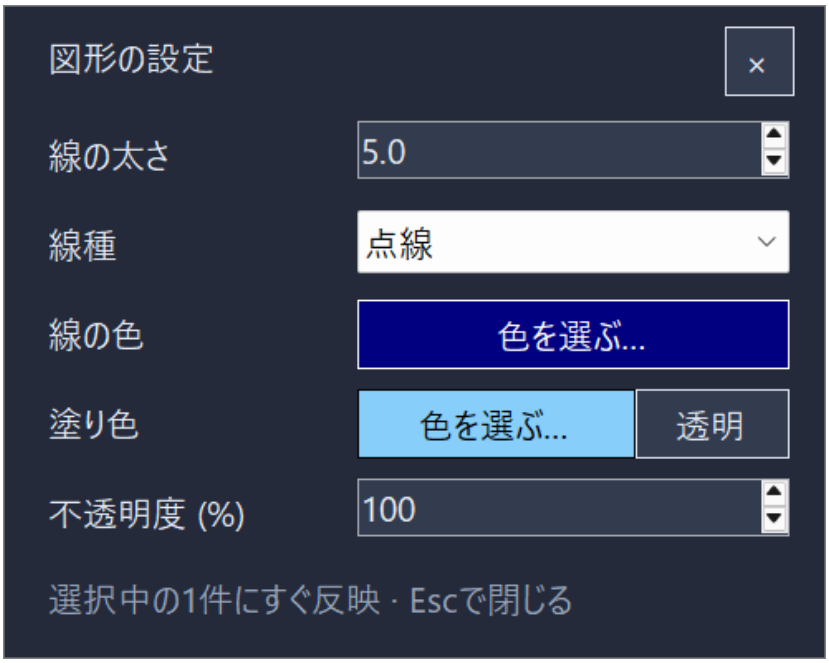
4. 文章を編集

「文字の内容を編集…」で既存の入力欄を開きます。Ctrl＋Enterで確定、Escで入力を取り消します。入力欄の下にある背景色変更も引き続き利用できます。

操作のポイント

赤い点の左ドラッグは文字枠のサイズ変更です。文字そのものを拡大したいときは、パネルの文字サイズを使ってください。

赤い点で図形の線と塗りを変更する



DesktopInk 1.3.7 実画面の操作例

1. 四角や丸を選択

図形を選び、枠の右上の赤い点を右クリックします。管理画面へ移動せず設定できます。

2. 輪郭を調整

線の太さ、実線・破線・点線・一点鎖線、線の色を選びます。

3. 塗りと不透明度を調整

「塗り色」で内部の色を選びます。「透明」で塗りをなくせます。不透明度は図形全体に反映します。

4. サイズを変更して保存

パネルを閉じ、赤い点を左ドラッグして枠を調整します。編集情報付きPNGなら新しい設定も保管できます。プリセット登録・呼び出しでも線種、矢印方向、個別の文字サイズを保持します。

操作のポイント

新しい設定はDesktopInk 1.2.3以降で編集してください。旧版では新しい線種などが同じ見た目にならない場合があります。

最新版の確認・自動更新と手動更新



DesktopInk 1.3.7 実画面の操作例

1. 更新画面を開く

操作バーの「… → 更新・バージョン情報」、または通知領域アイコンの右クリックから開きます。現在のバージョンと更新方式を確認できます。

2. 最新版を確認する

一般向けの標準配布版は手動更新です。起動時の更新通信は行いません。ゴゴジャンの条件が確認できた場合に、開発側で自動更新対応ビルドへ切り替えられる構造です。

3. 受講生確認と更新

「配布ページを開く」から最新版ZIPを取得します。一般向け版のSetup.exeを選び、旧DesktopInkを終了して実行します。受講生専用版とは相互上書きできません。

4. 保存して更新する

受講生版で「ダウンロードして更新」を押すと、署名・サイズ・SHA-256を確認します。開いている各タブと独立キャンバスの保存先を確認し、保存後にアプリを終了します。更新が成功すると再起動します。保存をキャンセルすると更新を実行しません。無料版は保存時の編集ロックに注意してください。

操作のポイント

1.2.3以前にはこの更新機能がありません。最初の1回は配布ページから1.3.0を手動インストールしてください。自動更新でも無断で編集中のデータを破棄しません。

更新できないとき・手動更新への切り替え



DesktopInk 1.3.7 実画面の操作例

1. 通信できない場合

ネット接続がなくても描画機能は利用できます。更新確認が失敗したときは、後から再確認するか「配布ページを開く」を使います。確認コードの期限は10分、入力は5回までです。コードを他の方と共有しないでください。

2. 配布元が手動更新に切り替えた場合

受講生版は配布元の管理画面で自動更新を停止できます。アプリに手動更新を案内し、更新ファイルの直接取得を停止します。通常の受講生ページで認証し、最新版をダウンロードすることは継続できます。一般向け版は標準で手動更新です。

3. インストールに失敗した場合

セットアップは既存ファイルを復元します。設定・画像・プロジェクト・ライセンス情報を初期化しません。エラー画面を確認し、他のセットアップやアプリを終了してから再実行してください。自動更新の結果はアプリ設定フォルダー内のlast-update.txtに残ります。復元自体が完了しなかった場合は、そのエラーと対象ファイルも表示します。

4. 最新版を手動で入れ直す

現在利用中の版と同じ種類のSetup.exeを使います。通常の更新は旧版のアンインストール不要です。同じ版では修復を選択できます。設定を保持したまま修復し、大切な保存データは常に別途バックアップしてください。

操作のポイント

署名・ハッシュ・版・有効期限の不一致時は更新ファイルを実行しません。古い版への上書きも拒否します。確認前にOSの保護機能を無効にする必要はありません。

フリーハンド・折れ線・曲線を矢印に変える



DesktopInk 1.3.7 実画面の操作例

1. 描いた線を選ぶ

選択・移動ツールで、変更するフリーハンド・折れ線・曲線を1つ選びます。元の形を保ったまま矢印を付けられます。

2. 赤い点を右クリックする

フリーハンドは選択枠の右上、折れ線と曲線は終点の赤い点を右クリックします。「線の種類」で「矢印」を選びます。

3. 矢印の向きを選ぶ

「描き終わりへ」は最後の点だけ、「描き始めへ」は最初の点だけ、「両矢印」は両端に矢印を付けます。フリーハンドの赤い点は操作パネルの入口であり、矢印の先端とは限りません。

4. 点線や色と組み合わせる

「線種」で実線・破線・点線・一点鎖線を選べます。色・太さ・不透明度も同じパネルで変更できます。

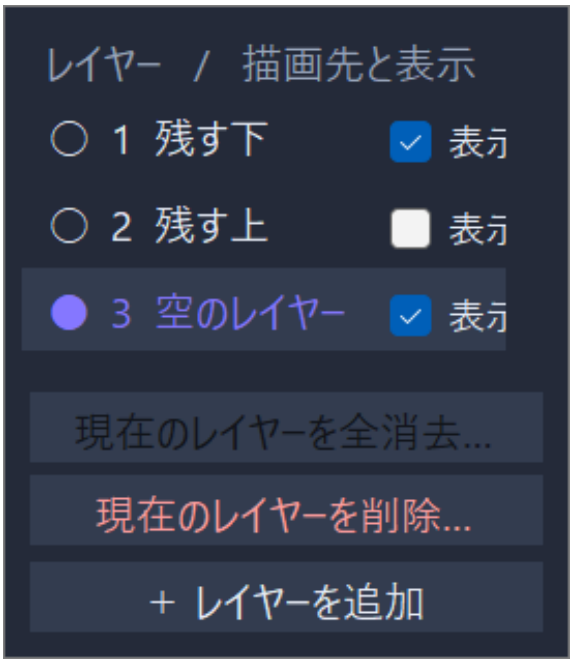
5. 普通の線へ戻す・保存する

「線の種類」を「線」に戻すと矢印だけを外せます。描いた点の位置は変わりません。編集情報付きPNG/.dink、複製、描き込みの再表示、プリセットにも設定を保持します。無料版の保存後は通常どおり編集ロックされます。

操作のポイント

この機能は1.3.1以降に対応しています。旧版で開くと新しい矢印が表示されないため、再編集には最新版を使ってください。直線にも従来どおり始点・終点・両矢印を選べます。

不要なレイヤー自体を削除する



DesktopInk 1.3.7 実画面の操作例

1. 削除するレイヤーを選ぶ

操作バーのレイヤーボタンを開き、削除したいレイヤーを選びます。もう一度レイヤーメニューを開き、「現在のレイヤーを削除…」を押します。編集画面のレイヤー一覧下にある「レイヤーを削除…」からも操作できます。

2. 描画が入っている場合は確認する

レイヤー名と描画数を確認し、削除する場合だけ確認画面のOKを押します。初期選択はキャンセルです。空のレイヤーは確認なしで削除します。

3. 削除後の状態を確認する

選んだレイヤーとその描画だけがなくなります。他のレイヤー、背景画像、保存済みのファイルは保持します。最後の1枚は残すため、削除ボタンが押せなくなります。

操作のポイント

1.3.2以降の機能です。削除は元に戻せないため、必要なら先に別名保存してください。無料版で編集ロックされた保存データでは、この操作も利用できません。

画像編集と通常のPC操作を切り替える



DesktopInk 1.3.7 実画面の操作例

1. 保存画像を編集する

キャプチャー管理から画像を開き、選択・移動で線や文字を編集します。保存画像の背景とサイズを保ったまま操作できます。

2. マウス形のボタンでPC操作へ戻る

編集画面が隠れ、通常のPC操作に戻ります。この切り替えではデスクトップを撮影せず、編集中の画像を置き換えません。

3. 編集を再開する

もう一度マウス形のボタンを押すか、選択・移動や文字などのツールを選ぶと、保持していた編集画面へ戻ります。

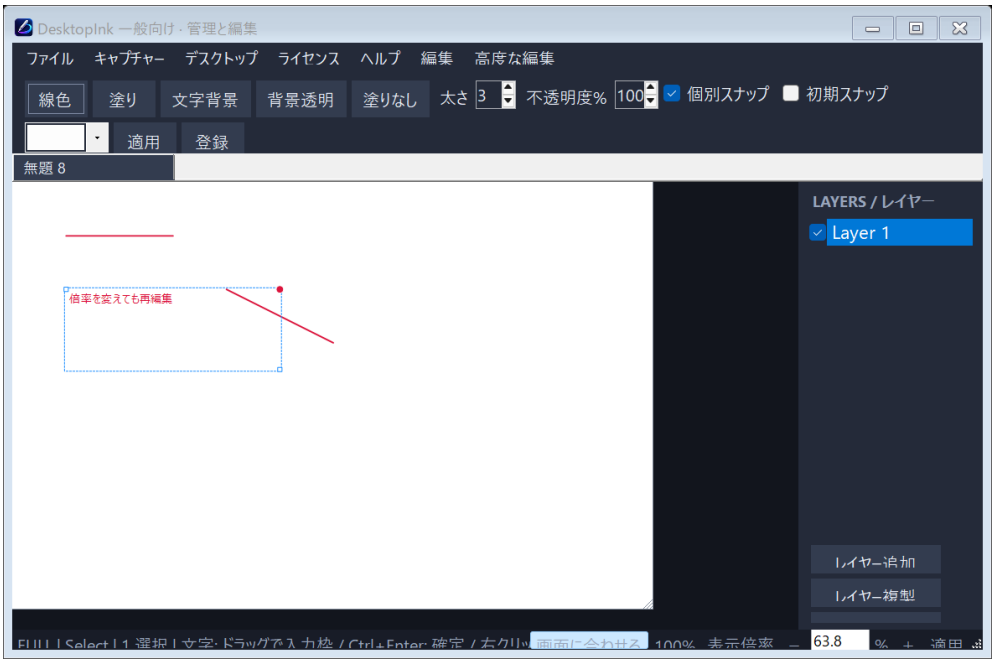
4. デスクトップ描画との違い

モニターを選んでデスクトップ描画を始めると、保存済みファイルは元のタブに残し、別の未保存タブで作業します。「高度な編集」の描き込み再表示は、背景を使わず今のデスクトップへ重ねる別の機能です。

操作のポイント

1.3.3でモード切り替え時の画像保護を修正しました。表示異常時の復帰はCtrl＋Shift＋F12です。大切な画像は別名保存して保管してください。

表示倍率を変更して画像全体・細部を編集する



DesktopInk 1.3.7 実画面の操作例

1. 画面に合わせて画像全体を見る

編集画面の下部にある「画面に合わせる」を押します。画像の縦横比を保って作業領域に収まる倍率にします。ウィンドウのサイズを変えると表示倍率も追従します。対応範囲は10〜400%です。

2. 倍率を指定する

下部の表示倍率欄に、50や63.5などの数値を入力し「適用」またはEnterで確定します。10〜400%、小数第1位まで指定できます。「−」「＋」は1%刻みです。「100%」ボタンで等倍へ戻ります。入力中の数値は、描画や選択の更新で勝手に戻らないようにしています。

3. マウスで拡大・縮小する

編集画像にマウスを置き、Ctrlを押しながらホイールを回します。上方向で拡大、下方向で縮小し、1段につき5%変わります。Ctrl＋Shift＋ホイールなら1%ずつ微調整できます。大きくして画面に収まらない部分はスクロールバーで移動できます。

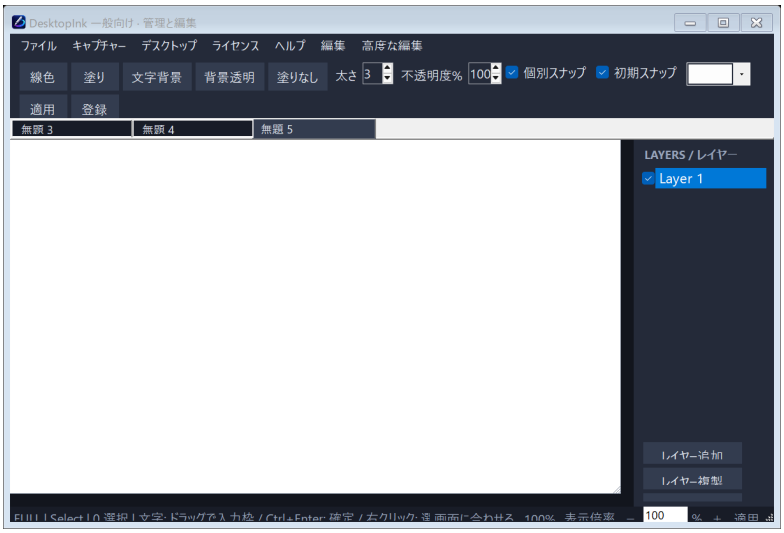
4. そのまま編集・保存する

拡大・縮小した表示でも線や文字を選択・追加できます。赤い点の右クリック設定も使用できます。画像の元サイズ、描画の座標・線幅・文字サイズは表示倍率では変わりません。保存する画像も元の画素数を維持します。

操作のポイント

1.3.5で倍率欄を直接入力＋適用方式に改善しました。表示倍率は編集画面だけに適用し、元画像や描画のサイズは変わりません。デスクトップ描画は等倍です。

白いキャンバスの大きさを変える



DesktopInk 1.3.7 実画面の操作例

1. 何も読み込まずに新規作成する

ファイル → 新規を選ぶと、白いキャンバスが編集画面の作業領域に合う大きさになります。空のままウィンドウを広げる・縮める・最大化すると、その広さに追従します。描き始めた後はサイズを固定して、内容を保ちます。

2. 端をドラッグしてサイズを変える

白いキャンバスの右端は幅、下端は高さ、右下は幅と高さを一緒に変更できます。端にマウスを置き、サイズ変更の形に変わったら左ボタンを押したまま動かし、離して確定します。ドラッグ中はEscで元のサイズに戻せます。

3. 描画を残して拡大・縮小する

キャンバスの大きさを変えても、線や文字の座標・サイズは変わりません。描いたものが切れない範囲で縮小が止まります。手動で決めたサイズは、その後ウィンドウを広げても維持します。

4. 表示領域に合わせ直す

ファイル → 白いキャンバスを領域に合わせる、を選びます。表示を100%にしてキャンバスの保存サイズを作業領域に合わせます。空なら自動追従に戻り、描画がある場合は内容を保てる大きさで固定します。同じファイルメニューに現在の保存サイズを表示します。

5. 画像を開いた場合・保存した場合

キャプチャーや背景画像を読み込んだキャンバスは元のサイズを維持し、端のサイズ変更は使いません。表示だけを変える場合は下部の表示倍率を使います。編集情報付きPNG・.dinkには変更後の幅と高さを保存します。開き直したときに自動では変わりません。無料版で保存後に再編集するには完全版の認証が必要です。

操作のポイント

キャンバスのサイズ変更は保存する画像の幅・高さを変えます。表示倍率は見え方だけを変えます。背景画像のない編集可能なキャンバスが対象で、デスクトップ描画中は使用できません。最小64px、各辺最大16384px・合計6400万画素までです。描画の範囲によって縮小できる大きさは変わります。